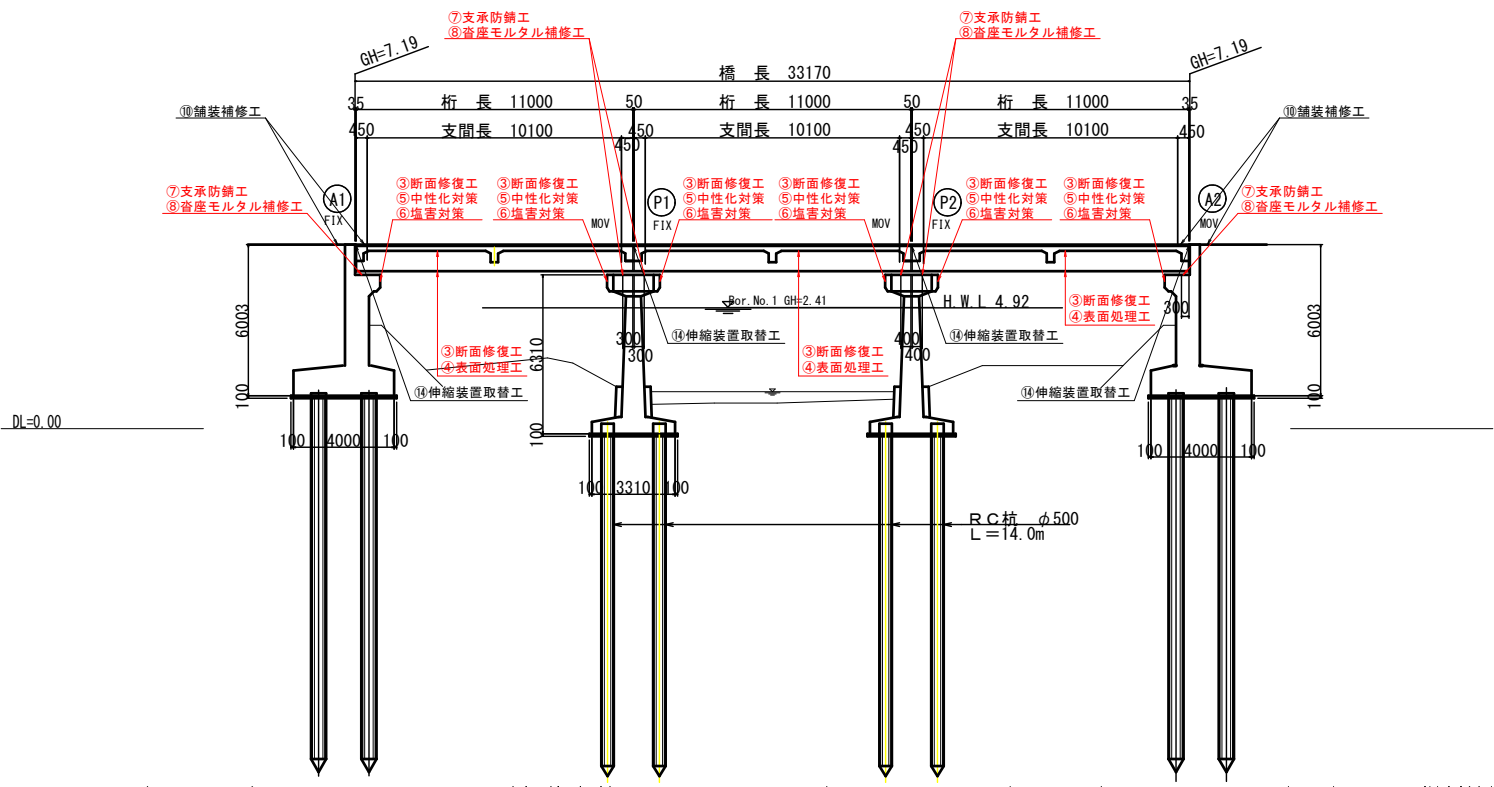
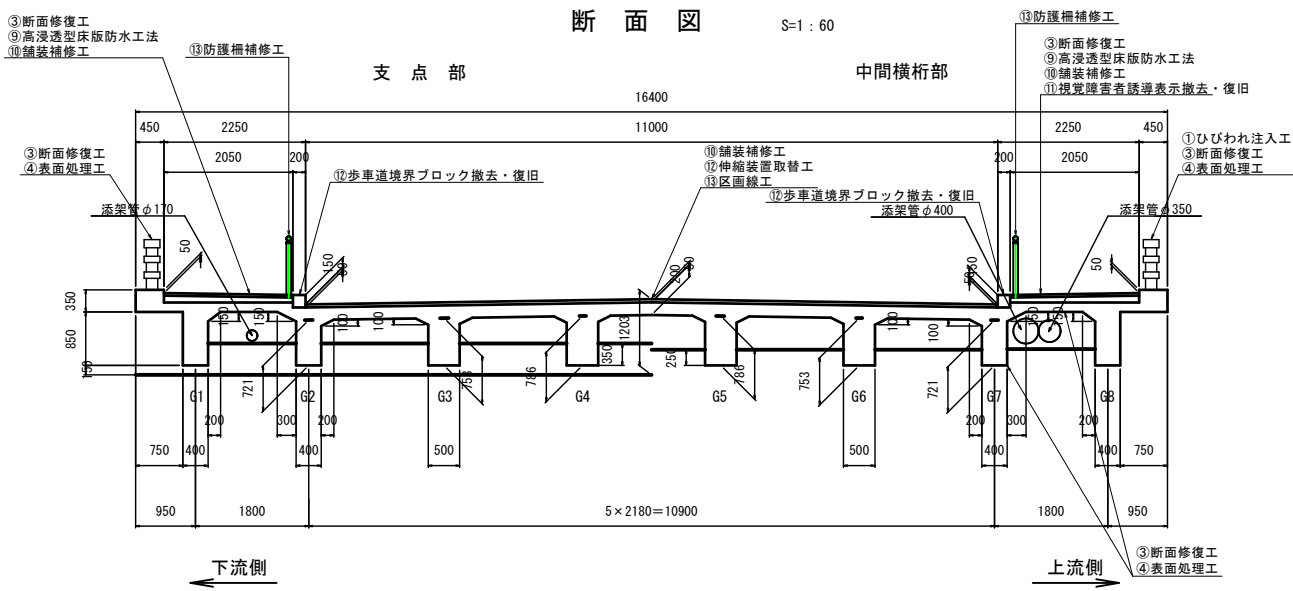


吉方橋補修工一般図

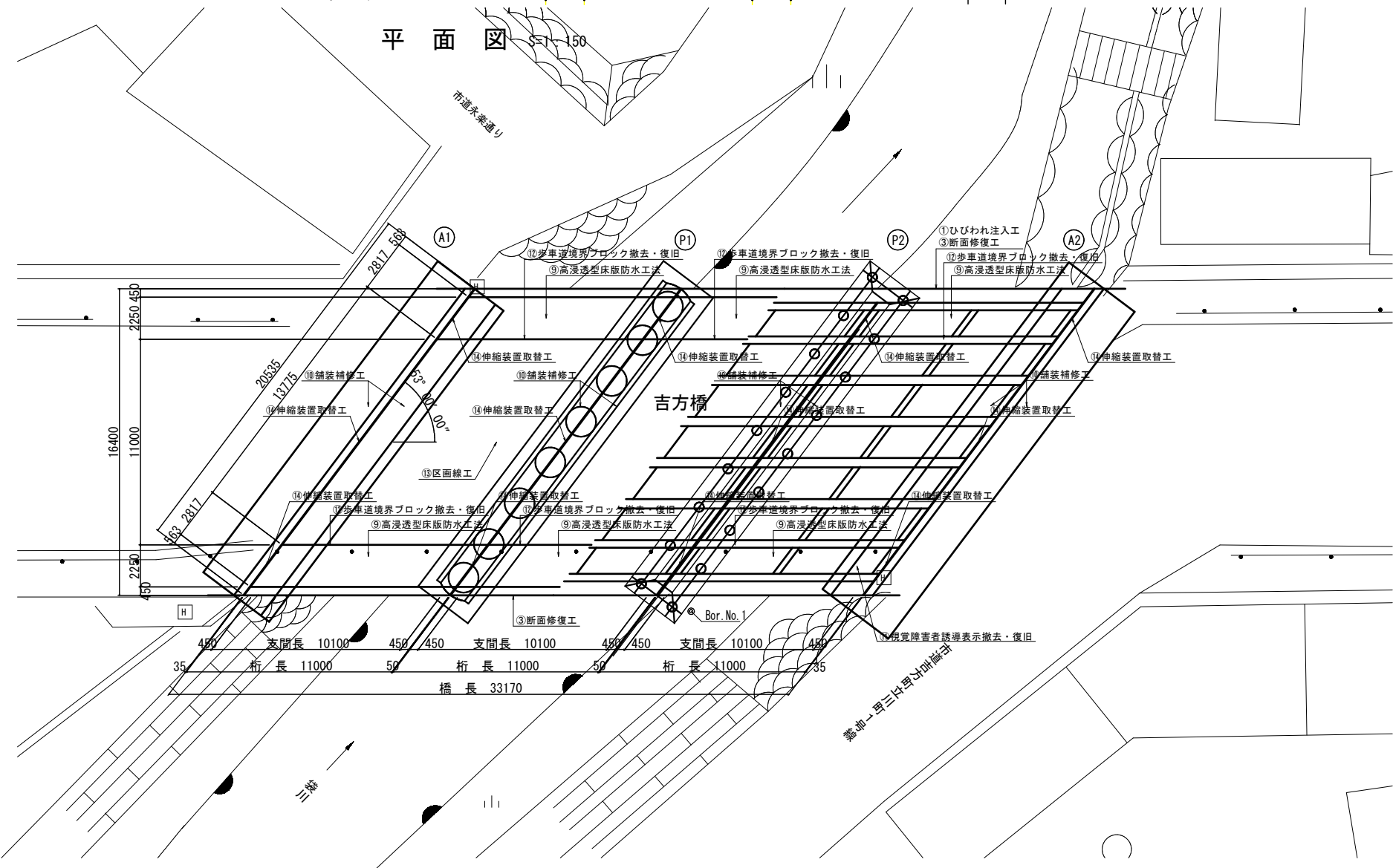
側面図 S=1:150



断面図 S=1:60



平面図 S=1:150



補修項目一覧表

番号	工 種	種 別	規 格	備 考
①	ひびわれ補修工	ひびわれ注入工	エポキシ樹脂I種	橋脚、 コシタリ →高欄、 親柱
②		ひびわれ充填工		橋脚、 親柱
③	断面修復工	左官工法	ポリマーセメントモルタル	床版、主桁、横桁、橋台、 舗装 →高欄、 親柱
④	表面処理工	表面含浸工	高分子系	床版、主桁、横桁、 高欄 、 親柱
⑤	中性化対策	亜硝酸リチウム圧入工法	亜硝酸リチウム	A1橋台、A2橋台、P1橋脚、P2橋脚
⑥	塩害対策			
⑦	支保防錆工	2種ケレン	錆進行抑制防水形蛍光クリア樹脂防食塗装	落橋防止装置
⑧	床版モルタル補修工		無収縮モルタル	支保
⑨	橋面工	高浸透型床版防水工法		橋面（歩道部）
⑩		舗装補修工	再生密粒度アスファルト（ストアス）	舗装（歩道部）
⑪			排水性舗装	舗装（接続道路部）
⑫			再生密粒度アスファルト（改質I型）	舗装（橋面部）
⑬		視覚障害者誘導表示撤去・復旧		橋面（歩道部）
⑭	伸縮装置取替工	歩車道境界ブロック撤去・復旧		橋面
⑮		区画線工		橋面（車道部）
⑯		埋設ジョイント取替工		伸縮装置
⑰	遊間処理工		ポリブタジエン系	遊間
⑱	防護柵補修工			防護柵

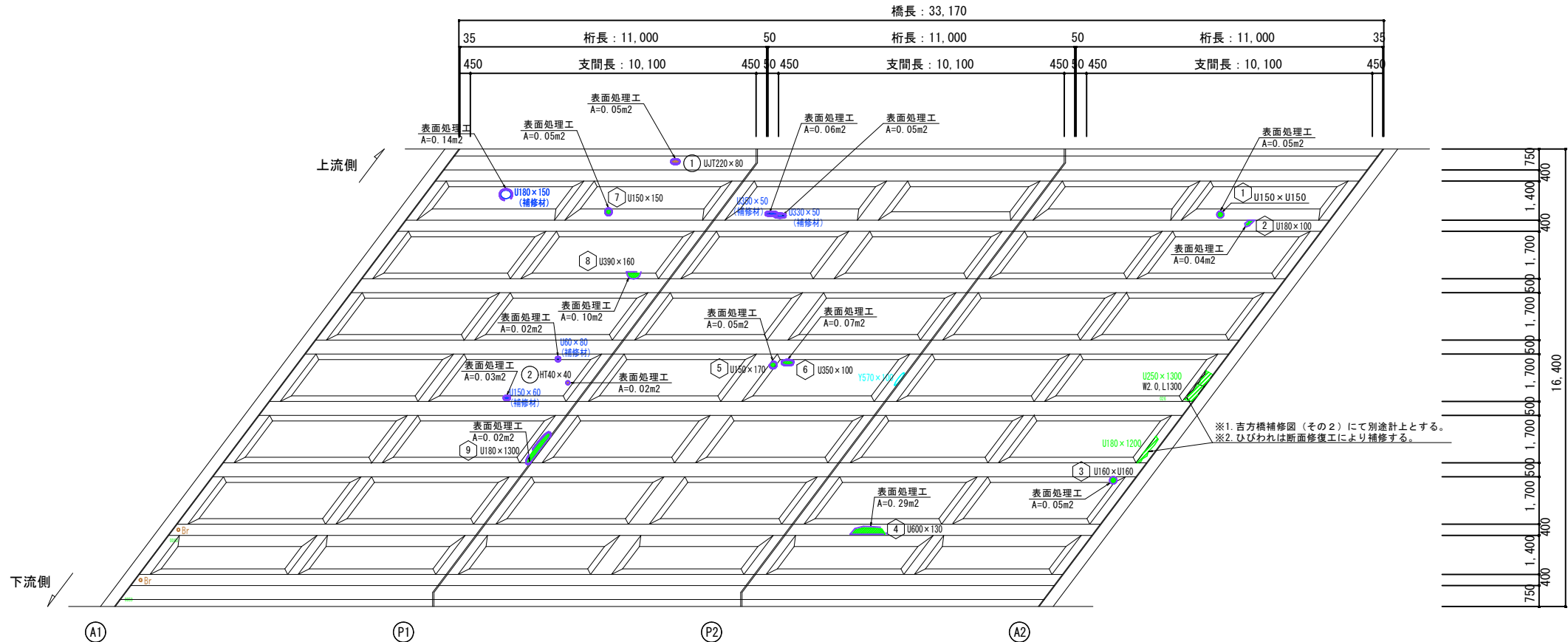
起工

路線名	一般県道若葉台東町線		
県道若葉台東町線（吉方橋） 橋梁補修工事（1工区）（補助橋補修）			
図 名	吉方橋補修工一般図		
位 置	鳥取市 吉方町		
縮 尺	図 示	単 位	mm
図 号	全 16 葉中の内 1		
令和 8 年度施行		鳥 取 県	
鳥取県土整備事務所			

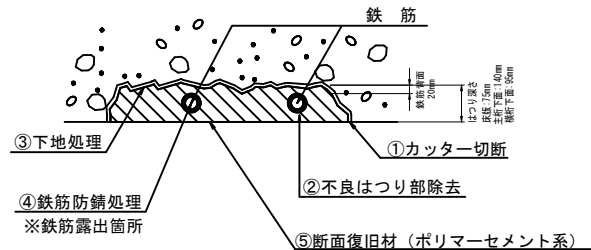
断面修復工、表面処理工

床版平面図

凡例	損傷	補修工法
 腐・陥 (腐) (陥)	うき	断面修復工（左官工法）
 腐・陥 (腐) (陥)	剝離・鉄筋露出	
 腐・陥 (腐) (陥)	補修材の損傷	
 腐・陥 (腐) (陥)		表面処理工



断面修復工(参考図)



※ 注記 はつり深さは、下記のように推定している。

表面処理工詳細図

断面図

躯体

下地処理

含浸材塗布 (0.15kg/m²)

※アイソールEX同等以上

含浸材塗布 (0.10kg/m²)

※アイソールEX同等以上

※ 施工手順

注記)

断面修復工(左官工法)
うき数量表

番号	縦(m)	横(m)	面積(m ²)
①	0.15	0.15	0.023
②	0.18	0.10	0.018
③	0.16	0.16	0.026
④	0.60	0.13	0.078
⑤	0.15	0.17	0.026
⑥	0.35	0.10	0.035
⑦	0.15	0.15	0.023
⑧	0.39	0.16	0.062
⑨	0.18	1.30	0.234
合計			0.525

断面修復工(左官工法)
剥離・鉄筋露出数量表

番号	縦(m)	横(m)	面積(m2)
①	0.22	0.08	0.018
②	0.04	0.04	0.002
合計			0.020

表面处理工 数量表

個数	面積 (m ²)
1	0.05
2	0.14
3	0.05
4	0.06
5	0.05
6	0.05
7	0.10
8	0.04
9	0.02
10	0.03
11	0.02
12	0.05
13	0.07
14	0.02
15	0.29
16	0.05
合計	1.09

※表面処理工は図測により数量集計としている。

※ 注記

起工			
路線名 一般県道若葉台東町線			
県道若葉台東町線（吉方橋） 橋梁補修工事（Ⅰ工区）（補助橋補修）			
図 名	吉方橋補修図（その１）		
位 置	鳥取市 吉方町		
縮 尺	図 示	単 位	mm
図 号	全 １６ 葉中の内 ２		
令和 ８ 年度施行		鳥 取 県	
鳥取県土整備事務所			

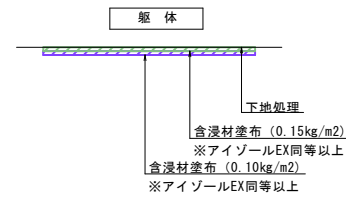
$$S=1:60$$

表面処理工詳細図

S=1:5

凡例	損傷	補修工法
 幅・縦 (mm) (mm)	うき	断面修復工（左官工法）
 幅・縦 (mm) (mm)	補修材の損傷	
 幅・縦 (mm) (mm)		表面被覆工

断面図



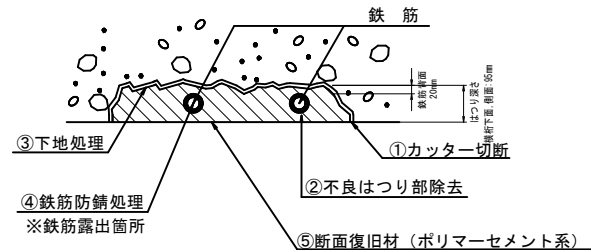
※ 施工手順

- 1 下地処理および清掃工
↓
2 含浸材塗布 2回
↓
3 養生

注記)

- ※ 浸材は、フィアールEX914等同等以上の材料を選定し、撥水性およびかなりコンクリートの密着性を期待しているため、目的に合った品質の浸食材を調達すること。
 - ※ 塗布後の色相は、グレーとする施工。
 - ※ 施工中は、埃の付着による施工不良が懸念されるので、養生を行い、埃の出る工種を平行に行わないこと。
 - ※ 表面浸食材として塗布する表面保護膜は、仕様に塗布量に十分注意し塗布すること。
 - ※ 塗布面の湿度を合いにより、出来栄が左右されるため、塗布前のコンクリート表面においては使用する浸食材の施工要領によること。
 - ※ 採用した浸食材の施工手順書を十分確認して施工すること。
 - ※ 補修部にひびわれが確認された場合はひびわれ補修後、表面処理工を施工すること。
 - ※ ケレン処理および高圧洗浄などにより、塗布面を十分に清掃すること。
 - ※ 下地に汚れやフロアコンタミなど付着している場合に塗布できず、付着力が低下し、塗膜の剥離の原因となること。
 - ※ 剝離、欠損、不陸部は断面修復後、施工を行うこと。
 - ※ 不陸部等の修復においては材料の付着性や浸透性を阻害するため、断面修復はポリマーセメント系を使用すること。
 - ※ 不陸部調整等の下地調整を実施する場合は、必ず金鍬にて仕上げを行うこと。
- ※ 下地施工の仕上がり及び、浸食材塗布後の最終的な仕上がり状況に反映されること。
- ※ 使用の表面浸食材の特性に合わせた、コンクリート表面の水分管理を行うこと。
- ※ 施工の適正気温及び養生方法を確認し、施工を行うこと。

断面修復工(参考図)



※ 注記 はつり深さは、下記のように推定している。

＜横桁下面,側面＞

$$\text{鉄筋かぶり} = 51\text{mm} + \text{鉄筋径} 24\text{mm} + 20\text{mm} \div 95\text{mm}$$

断面修復は、ハンドカッター等によりフェザーエッジにならないように施工すること。
設計上の研り深さと現地と差異がある場合は補修方針を考慮し適切な修復深さとすること。

断面修復工(左官工法)
うき数量表

番号	縦(m)	横(m)	面積(m ²)
1	0.20	1.15	0.230
2	0.25	1.30	0.325
3	0.20	0.90	0.180
4	0.18	1.20	0.216
合計			0.951

表面处理工 数量表

個数	面積 (m2)
1	0.41
2	0.45
3	0.33
4	0.39
5	0.06
合計	1.64

※表面処理工は図測により数量集計としている。

起工

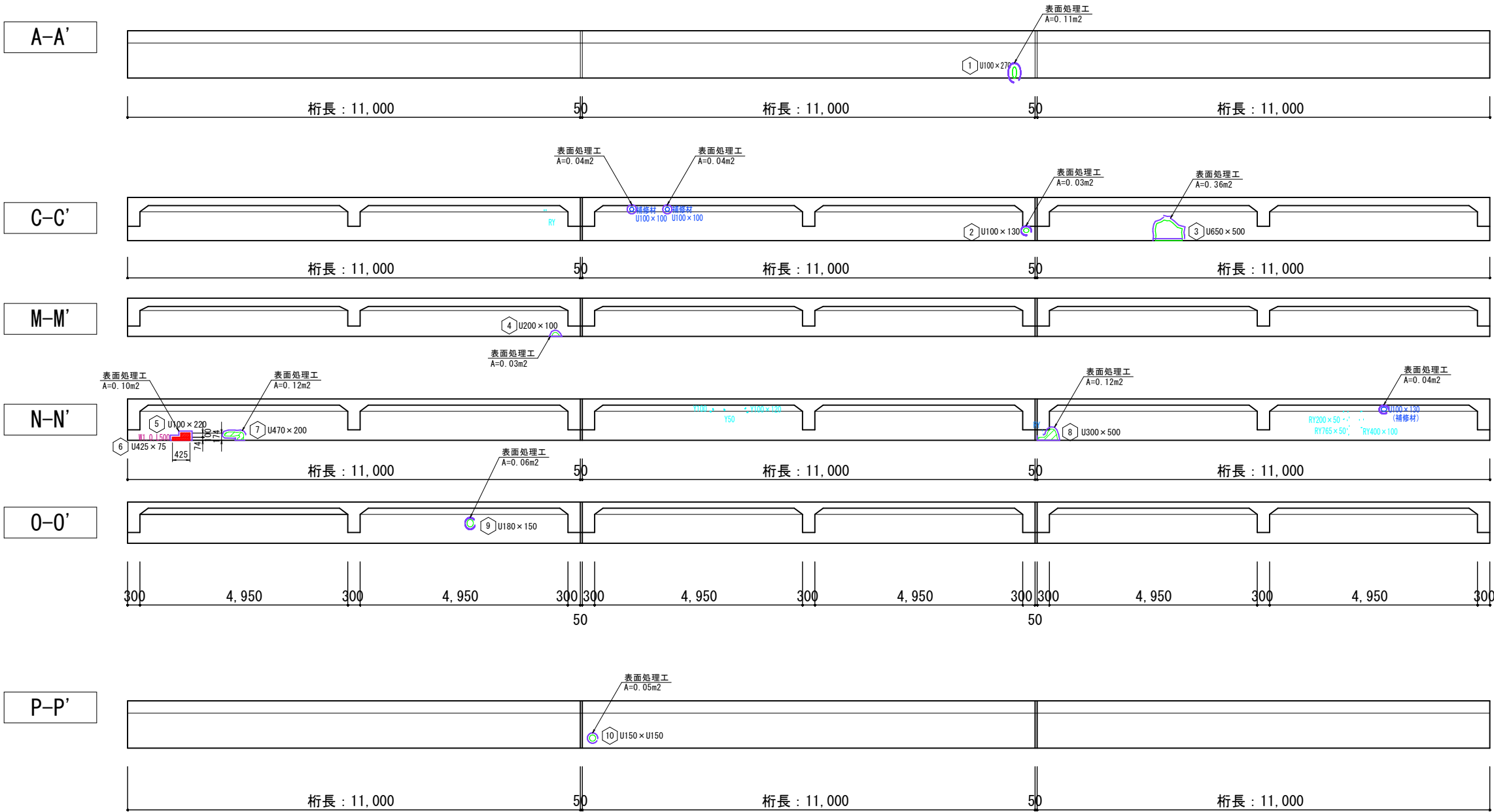
路線名	一般県道若葉台東町線		
県道若葉台東町線（吉方橋） 橋梁補修工事（1工区）（補助橋補修）			
図 名	吉方橋補修図（その2）		
位 置	鳥取市 吉方町		
縮 尺	図 示	単 位	mm
図 号	全 1 6 葉中の内 3		
令和 8 年度施行		鳥 取 県	
鳥取県土整備事務所			

補修図（その3）

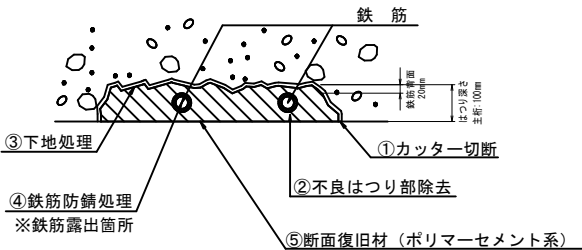
S=1:60

断面修復工、表面処理工

主桁側面図



断面修復工（参考図）



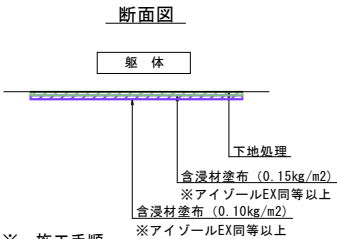
※ 注記 はつり深さは、下記のように推定している。

＜主桁側面＞
鉄筋かぶり=50mm+鉄筋径32mm+20mm≒100mm
断面修復工は、ハンドカッター等によりフェザーエッジにならないように施工すること。
設計上の断り深さと現地と差異がある場合は補修方針を考慮し適切な修復深さとする。

表面処理工詳細図

S=1:5

- 注記
- 含浸材は、アイゾールEXクリアと同等級以上の材料を選定し、撥水性およびかぶりコンクリートの緻密化を期待しているため、目的に合致した品質の含浸材を調達すること。
 - 塗布後の色彩は、グレーとすること。
 - 施工中は、埃の付着による施工不良が懸念されるので、養生を行い、埃の出る工程を平行して行わないこと。
 - 表面含浸材として塗布する表面保護材は、仕様と塗布量に十分注意し塗布すること。
 - 塗布面の湿潤度合いにより、出来栄が左右されるため、塗布前のコンクリート表面においては使用する含浸材の施工要領によること。
 - 採用した含浸材の施工手順書を十分確認して施工すること。
 - 補修部にひびわれが確認された場合はひびわれ補修後、表面処理工を施工すること。
 - ケレン処理および高圧洗浄などにより、塗布面十分に清掃すること。
下地に汚れやエフロレッセンスなど付着している場合に塗布すると、付着力が低下し、塗膜の剥離の原因となる。
 - 剥離、欠損、不陸部は断面修復工後、施工を行うこと。
 - 不陸部等の修復においては材料の付着性や浸透性を阻害するため、断面修復はポリマーセメント系を使用すること。
 - 不陸部調整等の下地調整工を実施する場合は、必ず金鏝にて仕上げを行うこと。
※下地施工の仕上がり、含浸材塗布後の最終的な仕上がり表面に反映される。
 - 使用の表面含浸材の特性に合わせた、コンクリート表面の水分管理を行うこと。
 - 施工の適正気温及び養生方法を確認し、施工を行うこと。



- ※ 施工手順
- 下地処理および清掃工
 - 含浸材塗布 2回
 - 養生

断面修復工（左官工法）
うき数量表

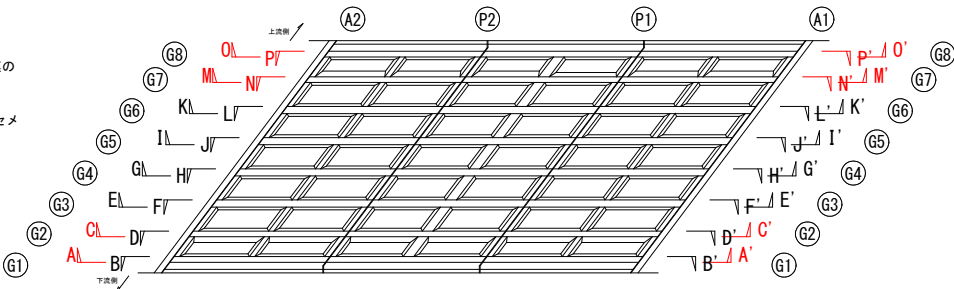
番号	縦 (m)	横 (m)	面積 (m ²)
①	0.10	0.27	0.027
②	0.10	0.13	0.013
③	0.65	0.50	0.325
④	0.20	0.10	0.020
⑤	0.10	0.22	0.022
⑥	0.43	0.08	0.034
⑦	0.47	0.20	0.094
⑧	0.30	0.50	0.150
⑨	0.18	0.15	0.027
⑩	0.15	0.15	0.023
合計			0.735

表面処理工 数量表

個数	面積 (m ²)
1	0.11
2	0.04
3	0.04
4	0.03
5	0.36
6	0.03
7	0.10
8	0.12
9	0.12
10	0.04
11	0.06
12	0.05
合計	1.10

※表面処理工は図測により数量集計としている。

位置図



※ 注記

- 本図は現地調査結果に基づき作成しているが、いずれも可能な範囲で近接し、確認したものである。
- したがって施工時には、必ず形状等確認したうえで施工を行う必要がある。
- 補修部位の施工に際しては、事前に既設コンクリート面の清掃を行い、数量等の確認を要する。

起工

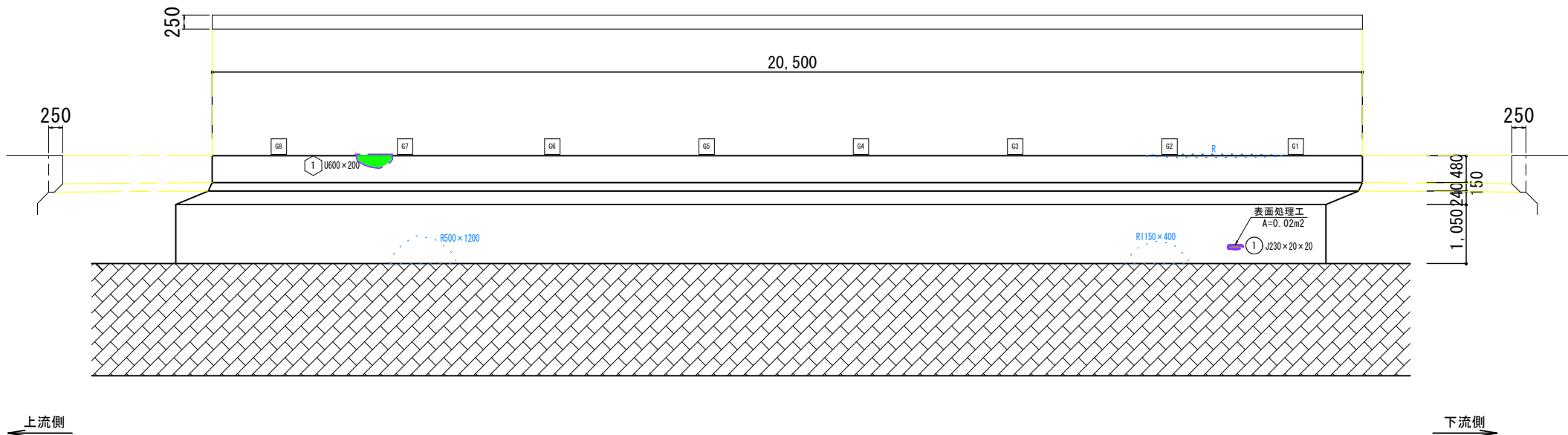
路線名	一般県道若葉台東町線
橋梁補修工事 (1工区) (補助橋補修)	県道若葉台東町線 (吉方橋)
図名	吉方橋補修図 (その3)
位置	鳥取市 吉方町
縮尺	図示単位 mm
図号	全 16 葉中の内 4
令和 8 年度施行	鳥取県
鳥取県土整備事務所	

吉方橋補修図（その4）

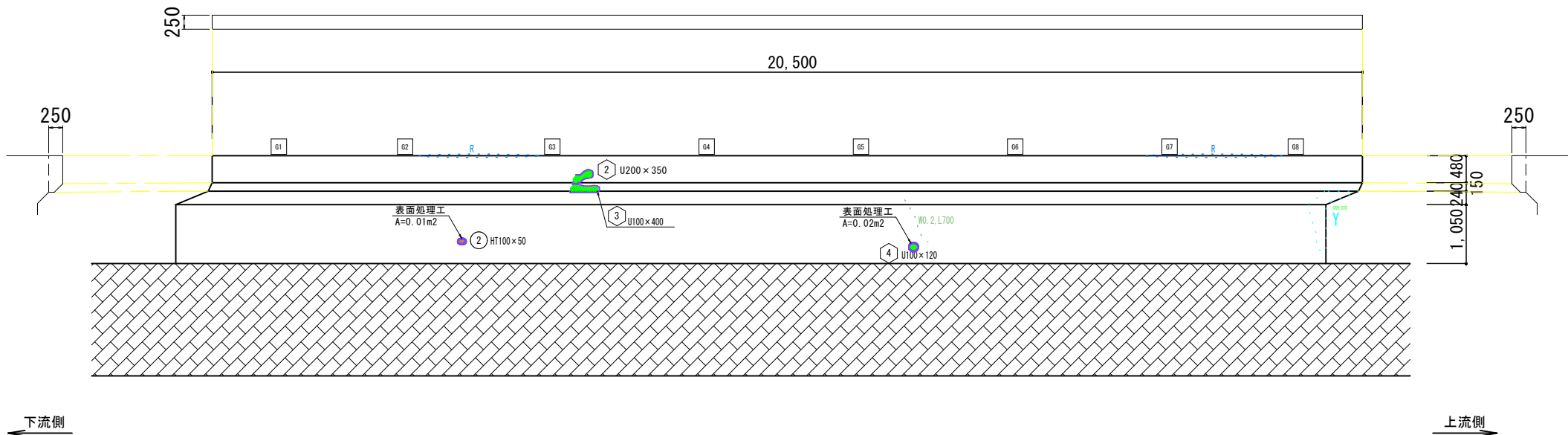
断面修復工、表面処理工

S=1:50

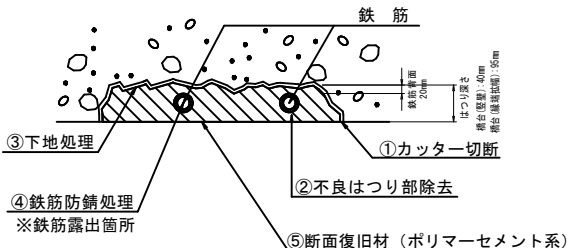
A1橋台



A2橋台

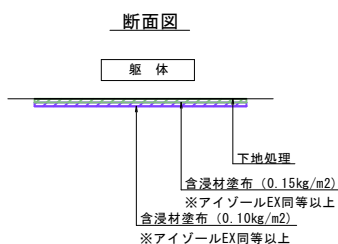


断面修復工（参考図）



表面処理工詳細図

S=1:5



※ 施工手順

- 下地処理および清掃工
- 含浸材塗布 2回
- 養生

注記)

- 含浸材は、アイゾールEXクリアと同等以上の材料を選定し、撥水性およびかぶりコンクリートの緻密化を期待しているため、目的に合致した品質の含浸材を選定すること。
- 塗布後の色彩は、グレーとすること。
- 施工中は、埃の付着による施工不良が懸念されるので、養生を行い、埃の出る工程を平行して行わないこと。
- 表面含浸材として塗布する表面保護材（高分子系コンクリート保護材）は、仕様と塗布量に十分注意し塗布すること。
- 塗布面の湿度度合いにより、出来栄が左右されるため、塗布前のコンクリート表面においては使用する含浸材の施工要領によること。
- 採用した含浸材の施工手順書を十分確認して施工すること。
- ひびわれ補修後、表面処理工を施工すること。
- ケレン処理および高圧洗浄などにより、塗布面を十分に清掃すること。下地に汚れやエフロレッセンスなど付着している場合に塗布すると、付着力が低下し、塗膜の剥離の原因となる。
- 剥離、欠損、不陸部は断面修復後、施工を行うこと。
- 不陸部等の修復においては材料の付着性や浸透性を阻害するため、断面修復はポリマーセメント系を使用すること。
- 不陸部調整等の下地調整を実施する場合は、必ず金鋸にて仕上げを行うこと。※下地施工の仕上がり、含浸材塗布後の最終的な仕上がり表面に反映される。
- 使用の表面含浸材の特性に合わせた、コンクリート表面の水分管理を行うこと。
- 施工の適正気温及び養生方法を確認し、施工を行うこと。

断面修復工（左官工法）
うき数量表

番号	縦(m)	横(m)	面積(m2)
①	0.60	0.20	0.120
②	0.20	0.35	0.070
③	0.10	0.40	0.040
④	0.10	0.12	0.012
合計			0.242

表面処理工 数量表

個数	面積(m2)
1	0.02
2	0.01
3	0.02
合計	0.05

※表面処理工は図測により数量集計としている。

断面修復工（左官工法）
剥離・鉄筋露出数量表

番号	縦(m)	横(m)	面積(m2)
①	0.23	0.02	0.005
②	0.10	0.05	0.005
合計			0.010

※ 注記

- 本図は現地調査結果に基づき作成しているが、いずれも可能な範囲で近接し、確認したものである。したがって施工時には、必ず形状等確認したうえで施工を行う必要がある。
- 補修部位の施工に際しては、事前に既設コンクリート面の清掃を行い、数量等の確認をする必要がある。

起工

路線名	一般県道若葉台東町線
県道若葉台東町線（吉方橋） 橋梁補修工事（1工区）（補助橋補修）	
図名	吉方橋補修図（その4）
位置	鳥取市 吉方町
縮尺	図示単位 mm
図号	全 16 葉中の内 5
令和 8 年度施行 鳥取県	
鳥取県土整備事務所	

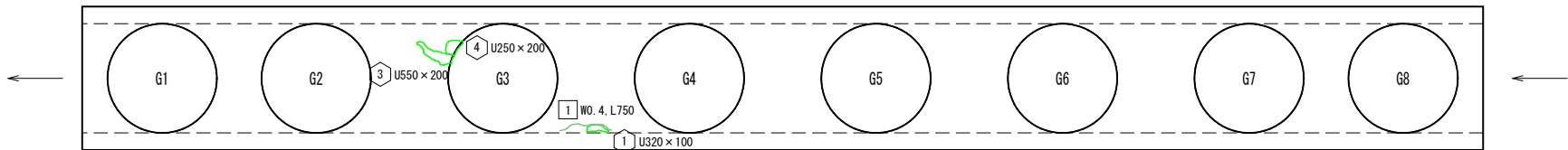
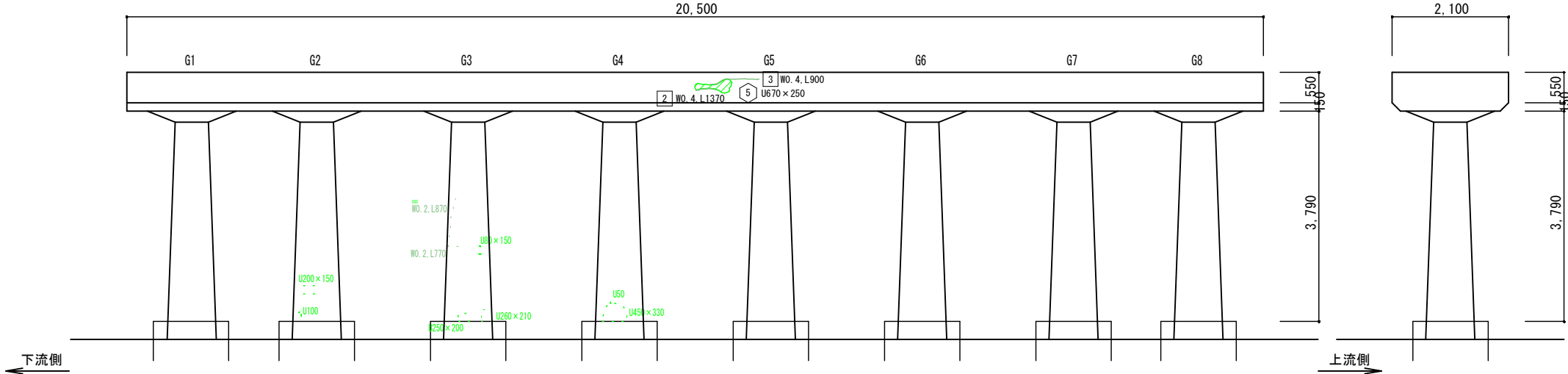
補修図（その6）

S=1:50

ひびわれ注入工、ひびわれ充てん工、断面修復工

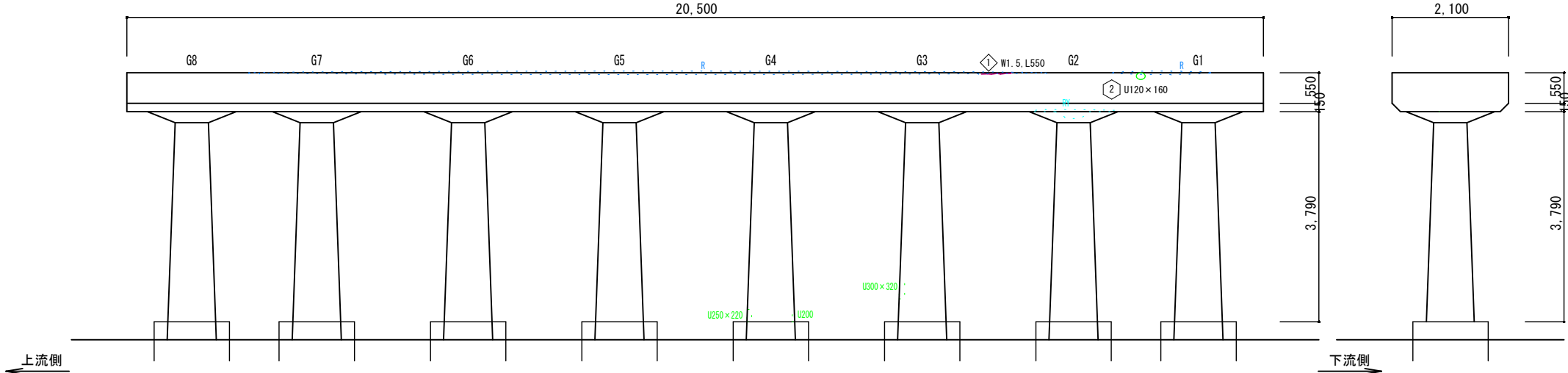
P2橋脚（起点側）

20,500



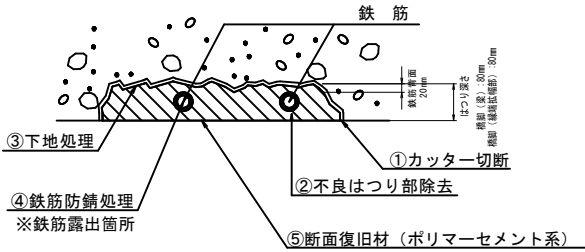
P2橋脚（終点側）

20,500



断面修復工（参考図）

P1橋脚（底面）



※ 注記 はつり深さは、下記のように推定している。

<橋脚梁>
鉄筋かぶり=50mm+鉄筋径9mm+20mm≒80mm

<縁端拡幅>
鉄筋かぶり=40mm+鉄筋径16mm+20mm≒80mm

断面修復工は、ハンドカッター等によりフェザーエッジにならないように施工すること。
設計上の所り深さと現地と差異がある場合は補修方針を考慮し適切な修復深さとする。

断面修復工（左官工法）
うき数量表

番号	縦(m)	横(m)	面積(m2)
①	0.32	0.10	0.032
②	0.12	0.16	0.019
③	0.55	0.20	0.110
④	0.25	0.20	0.050
⑤	0.67	0.25	0.168
合計			0.379

ひび割れ注入工数量表
ひび割れ幅0.3mm以上

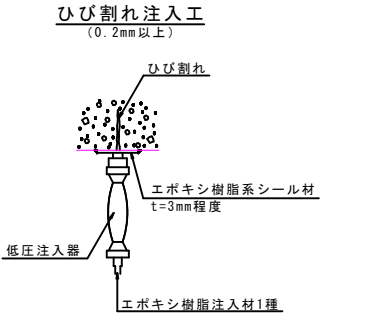
番号	ひび割れ幅(mm)	延長(m)
①	0.40	0.75
②	0.40	1.37
③	0.40	0.90
合計		3.02

ひび割れ充てん工数量表
ひび割れ幅1.0mm以上

番号	ひび割れ幅(mm)	延長(m)
◇	1.50	0.55

凡例	損傷	補修工法
幅・長さ (mm) (m)	ひび割れ (開口幅0.2mm以上～0.5mm未満)	ひびわれ注入工
幅・長さ (mm) (m)	うき	断面修復工（左官工法）
幅・長さ (mm) (m)	剥落・鉄筋露出	断面修復工（左官工法）
幅・長さ (mm) (m)	補修材の損傷	
幅・長さ (mm) (m)		表面被覆工

ひび割れ補修工（参考図）



注入工及び充てん工に使用する材料は、ひび割れの挙動やその進行性により選定しているため、用途に合致した品質の材料を調達すること。

※ 注記

- ・本図は現地調査結果に基づき作成しているが、いずれも可能な範囲で近接し、確認したものである。したがって施工時には、必ず形状等確認したうえで施工を行う必要がある。
- ・補修部位の施工に際しては、事前に既設コンクリート面の清掃を行い、数量等の確認をする必要がある。
- ・ひび割れ補修工のひび割れ深さについては2cmと仮定し数量を算出した。したがって施工時には数量等の変更が想定されるため監督員と協議を行い、数量の変更を行うこと。

- ・本図は現地調査結果に基づき作成しているが、いずれも可能な範囲で近接し、確認したものである。したがって施工時には、必ず形状等確認したうえで施工を行う必要がある。
- ・補修部位の施工に際しては、事前に既設コンクリート面の清掃を行い、数量等の確認をする必要がある。

起工

路線名	一般県道若葉台東町線		
県道若葉台東町線（吉方橋） 橋梁補修工事（1工区）（補助橋補修）			
図 名	吉方橋補修図（その6）		
位 置	鳥取市 吉方町		
縮 尺	図 示	単 位	mm
図 号	全 16 葉中の内 7		
令和 8 年度施行		鳥 取 県	
鳥取県土整備事務所			

吉方橋補修図（その9）
 支承防錆工（支承本体部）

凡 例

補修の種類	図面表示
支支承防錆工	
寄座・桁面塗布範囲	
橋座塗布範囲	

＜48基/1橋当り＞

(鑄進行抑制防水型蛍光クリア樹脂防食塗装システム)

1 素地調整

- 2 下地処理工
↓
3 パテ処理
↓
4 下塗り工
↓
5 上塗り工

上塗：耐塩害性防錆防水形蛍光クリア樹脂塗料上塗
標準仕様量 0.20kg/m²、濡れ膜厚165 μm、乾燥膜厚100 μm 4

下塗：耐塩害性防錆防水形蛍光クリア樹脂塗料下塗
標準仕様量 0.15kg/m²、濡れ膜厚135 μm、乾燥膜厚80 μm 5

パテ処理：防錆防水型クリア樹脂充填剤

下処理：浸透性錆進行抑制形蛍光防水処理材（標準仕様量 0.1kg/m²、膜厚0 μm）

素地調整 2層ケレン

支承部の標準施工範囲：鋼材、ゴムCR・NR及びコンクリートを適用面とし、施工部位としては支承の他、沓座モルタル部は支承の際からW200mmまでとし、桁部は、高さ(H)を下フランジ上端からH200mmとし、幅(W)は沓座モルタル部の塗装範囲端部に合わせる。

1. 素地調整は2種ケレン以上とし、ディスクサンダー、ワイヤホイールなど電動工具と手工具を併用。
2. はけおよびローラーによる塗装。
3. 鋼材のケレン後、断面減少等腐食が著しい場合は、監督員と協議を行い、対策を検討する必要がある。
4. ケレンにより生じた旧塗膜のケラダストは、周辺の土壌や河川を汚さないように十分留意するとともに人への影響にも注意すること。
5. 塩分および酸アルカリ等の腐食性の薬品が付着している場合は、水洗いで除去する。
6. 被塗面の塩分付着量が50mg/m²以上の時は、高圧水洗いで塩分を除去する。
7. 周辺に塗装ミストが飛散しないように十分な養生など必要な措置を講ずることが必要である。
8. 塗装は素地調整終了後、同日中に必ず下塗りまたは補修塗りを行う。当日塗装できなかった場合には、翌日あらためて素地調整を行ってから塗装しなければならない。

注記)

1. 施工前には必ず現況寸法実測を行い、図面照合等の確認ののち施工箇所を決定すること。

起工

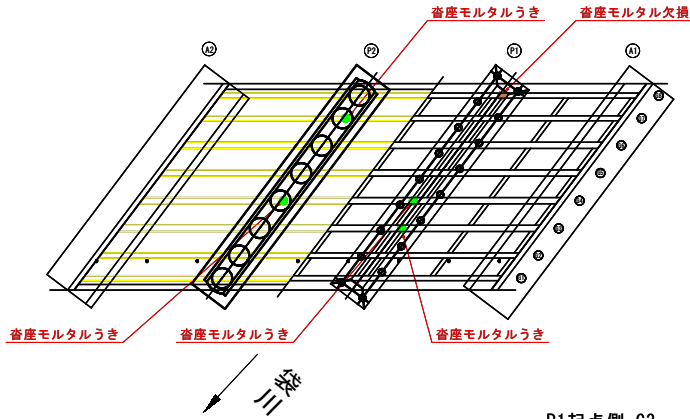
路線名	一般県道若葉台東町線		
県道若葉台東町線（吉方橋） 橋梁補修工事（1工区）（補助橋補修）			
図 名	吉方橋補修図（その9）		
位 置	鳥取市 吉方町		
縮 尺	図 示	単 位	mm
図 号	全 16 葉中の内 8		
令和 8 年度施行		鳥 取 県	
鳥取県土整備事務所			

吉方橋補修図（その１０）
沓座モルタル補修工

S=1:10

凡 例

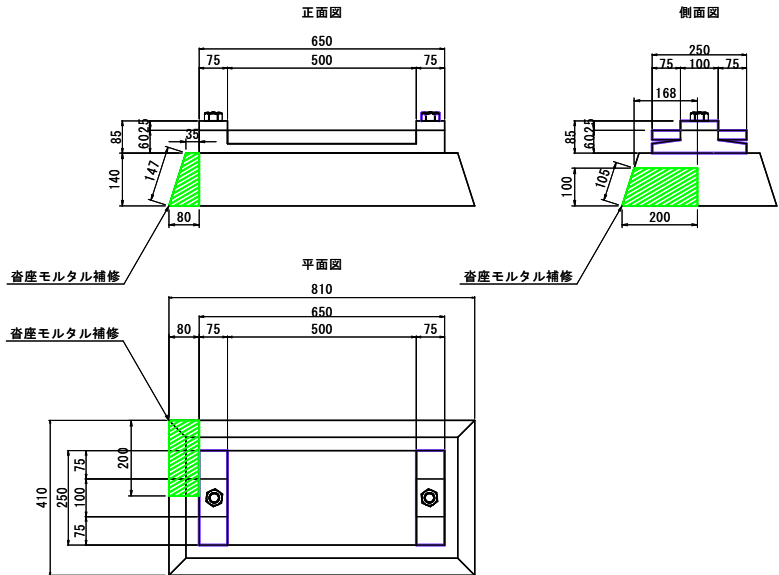
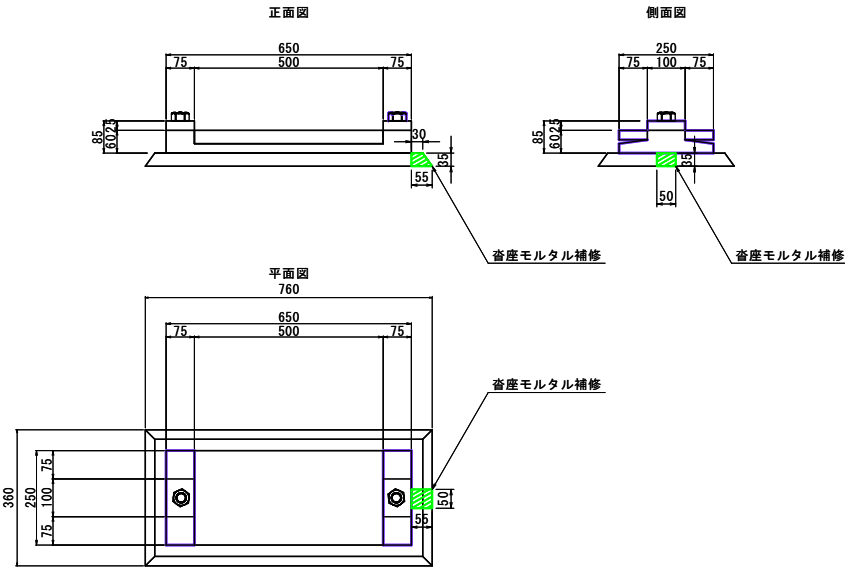
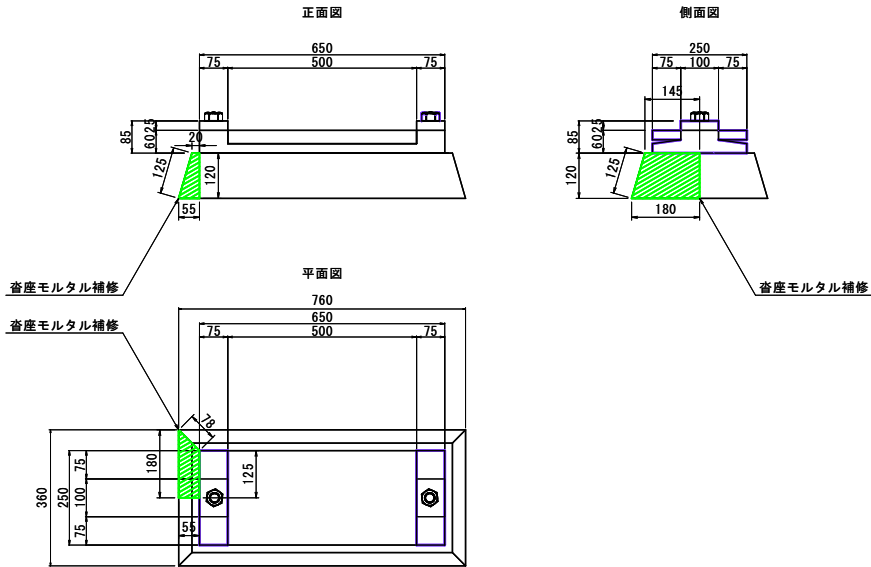
補修の種類	図面表示
沓座モルタル補修工	



P1起点側-G3

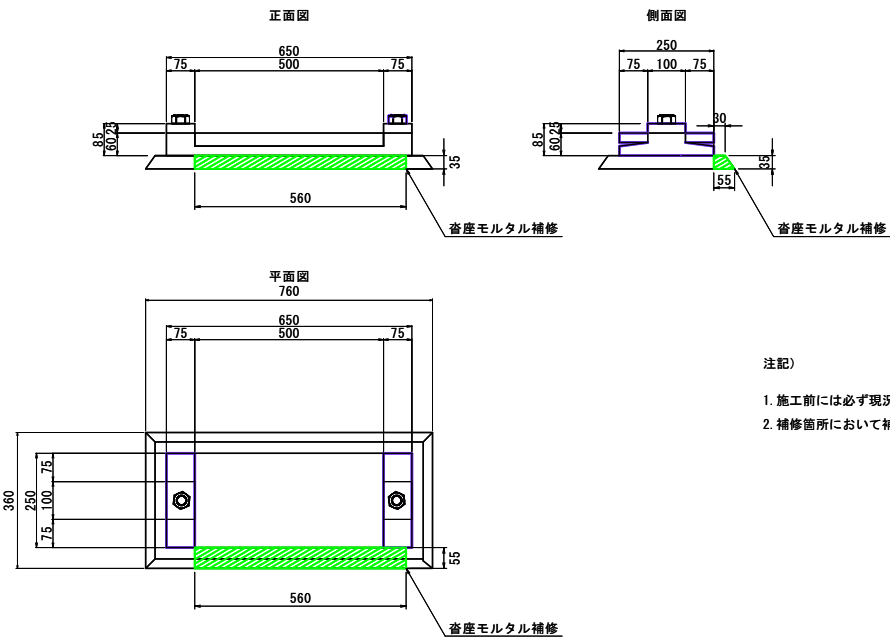
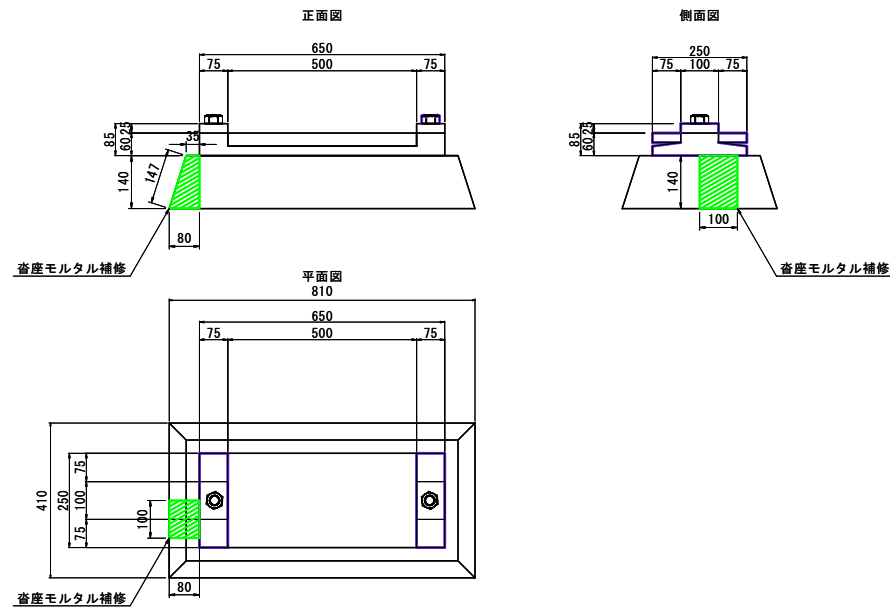
P1起点側-G8

P1終点側-G4



P2終点側-G4

P2起点側-G7



注記)

- 施工前には必ず現況寸法実測を行い、図面照合等の確認ののち施工箇所を決定すること。
- 補修箇所において補修範囲が沓座直下に及ぶ場合はジャッキアップで仮受の措置を講じること。

起工

路線名		一般県道若葉台東町線	
県道若葉台東町線（吉方橋） 橋梁補修工事（１工区）（補助橋補修）			
図 名	吉方橋補修図（その１０）		
位 置	鳥取市 吉方町		
縮 尺	図 示	単 位	mm
図 号	全 １６ 葉中の内 ９		
令和 ８ 年度施行		鳥 取 県	
鳥取県土整備事務所			

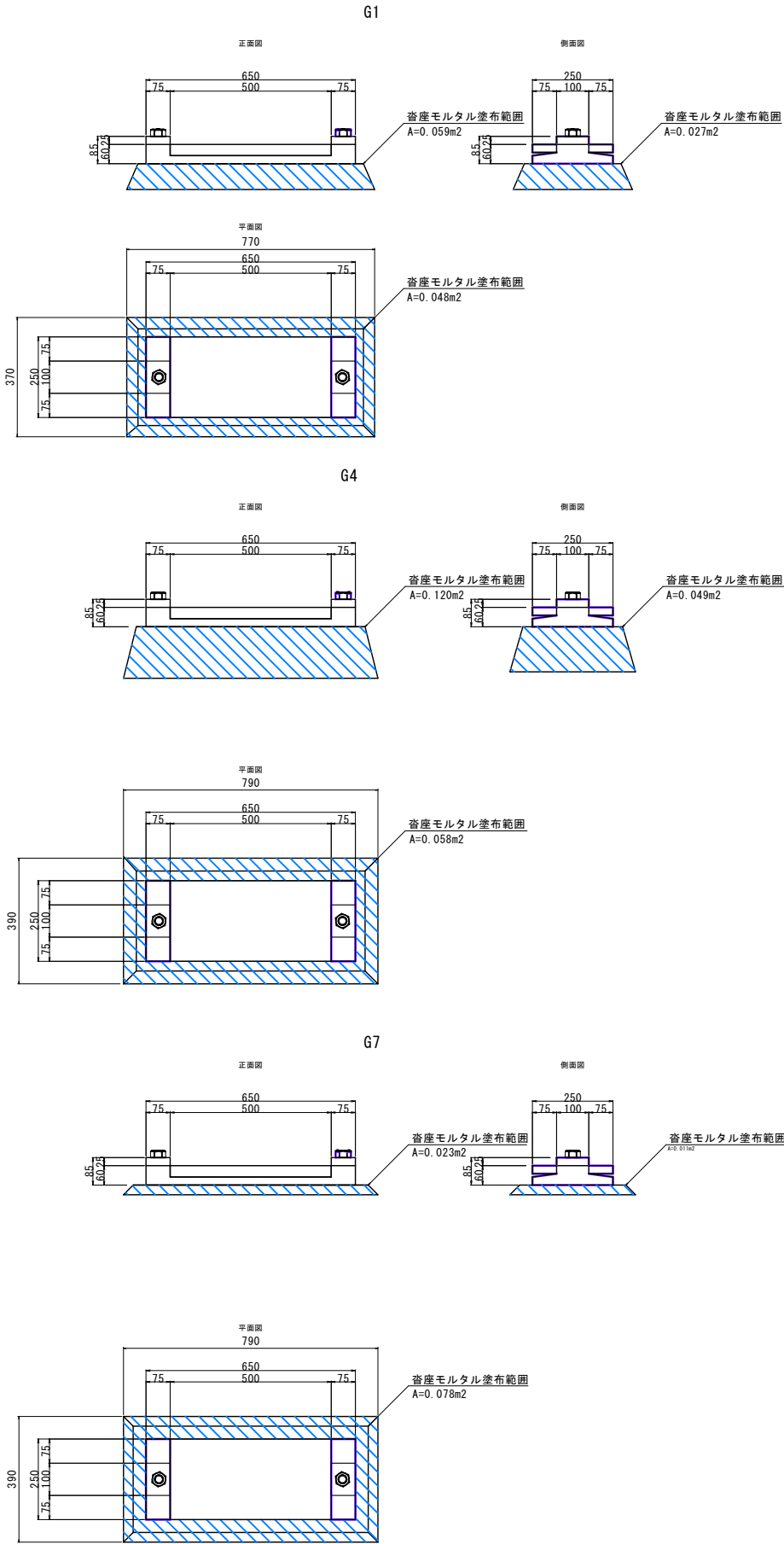
吉方橋補修図（その 1 1）
支承防錆工

S=1:10

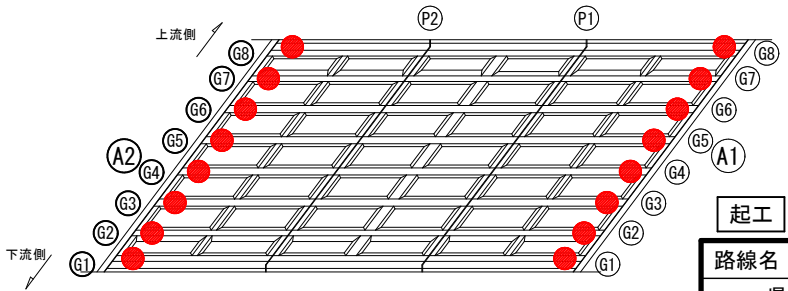
凡 例

補修の種類	図面表示
支承防錆工	

A1, A2



位置図



注記)

1. 施工前には必ず現況寸法実測を行い、図面照合等の確認ののち施工箇所を決定すること。

起工			
路線名		一般県道若葉台東町線	
県道若葉台東町線（吉方橋） 橋梁補修工事（1工区）（補助橋補修）			
図 名	吉方橋補修図（その 1 1）		
位 置	鳥取市 吉方町		
縮 尺	図 示	単 位	mm
図 号	全 1 6 葉中の内 1 0		
令和 8 年度施行		鳥 取 県	
鳥取県土整備事務所			

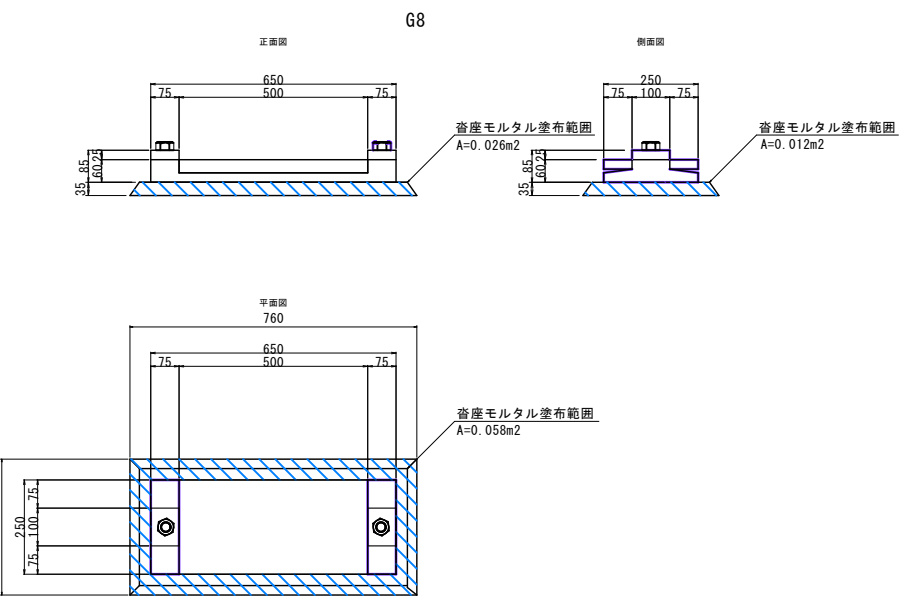
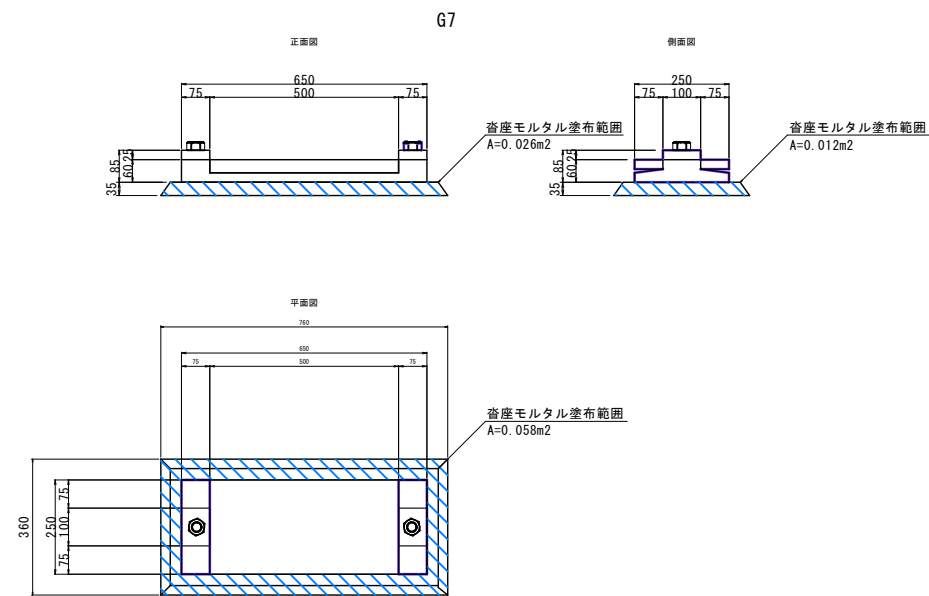
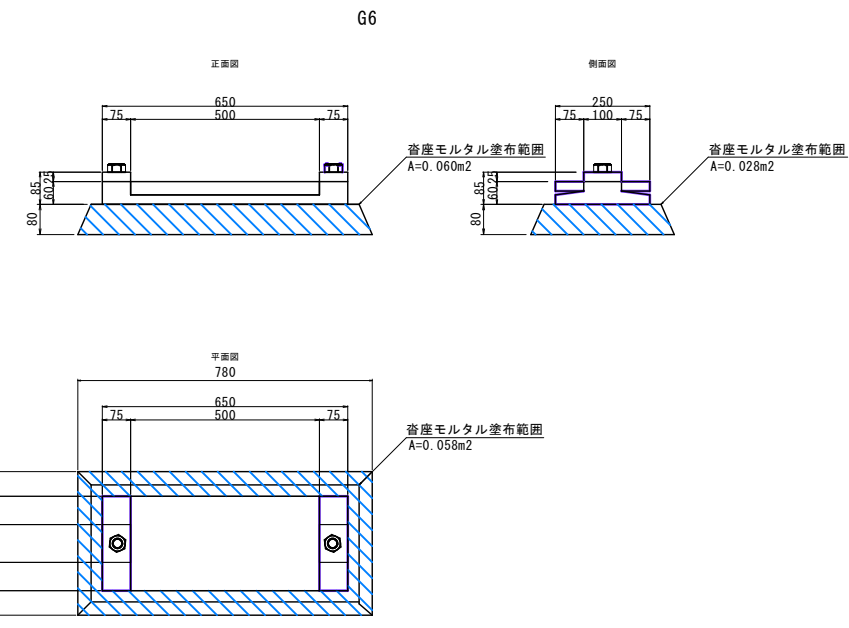
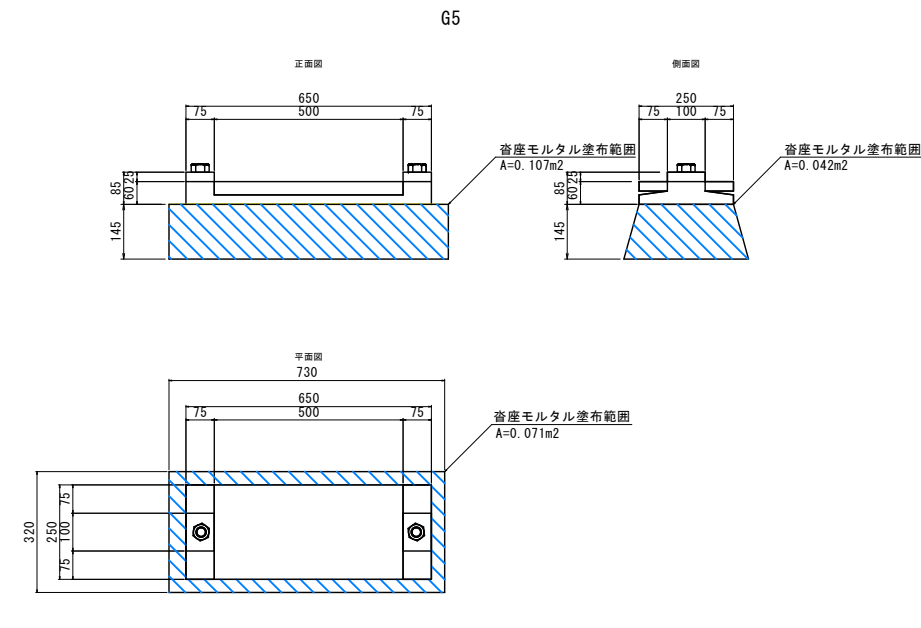
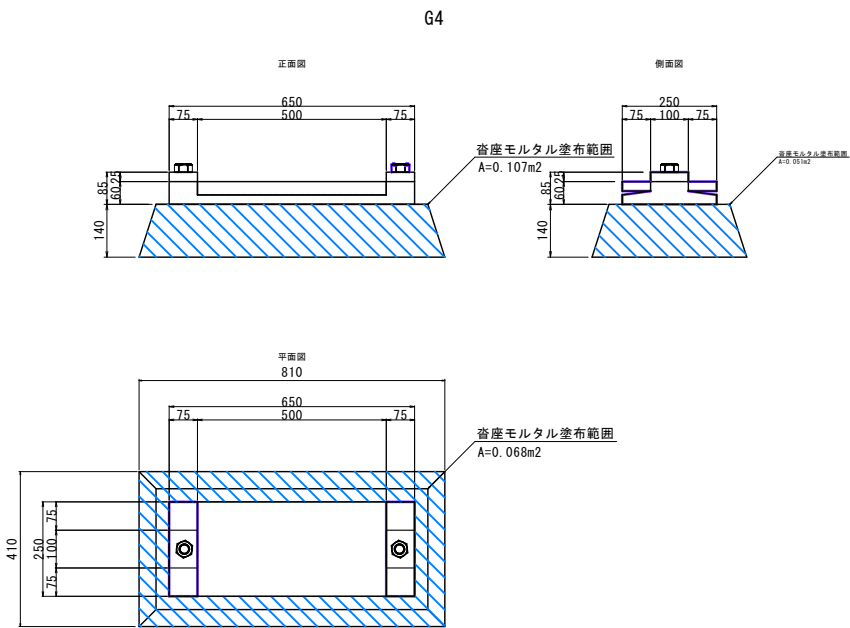
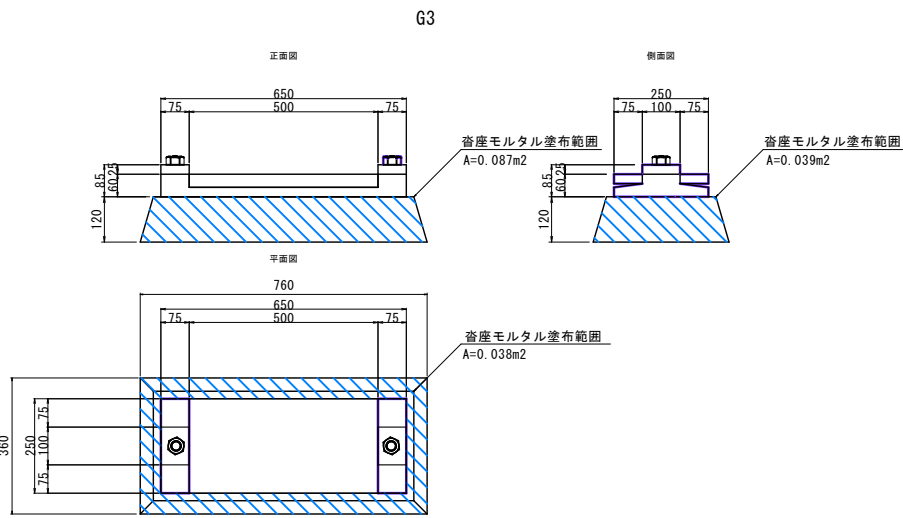
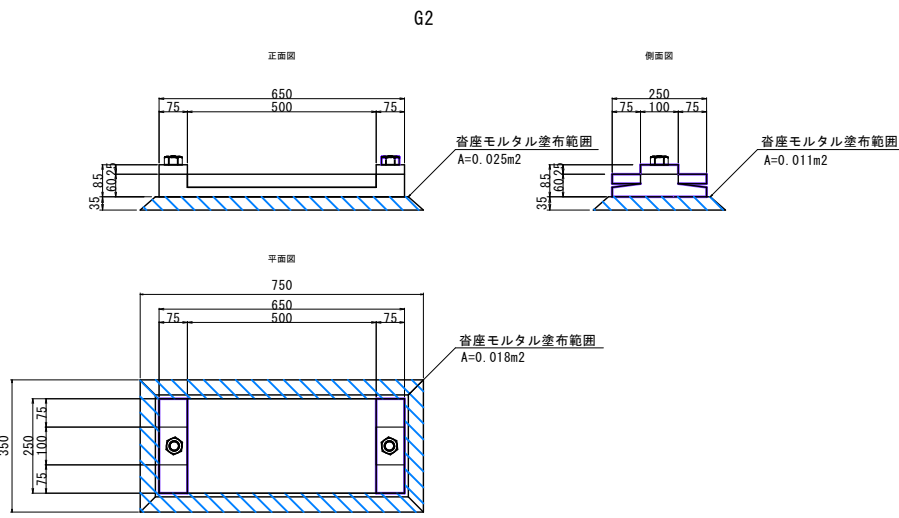
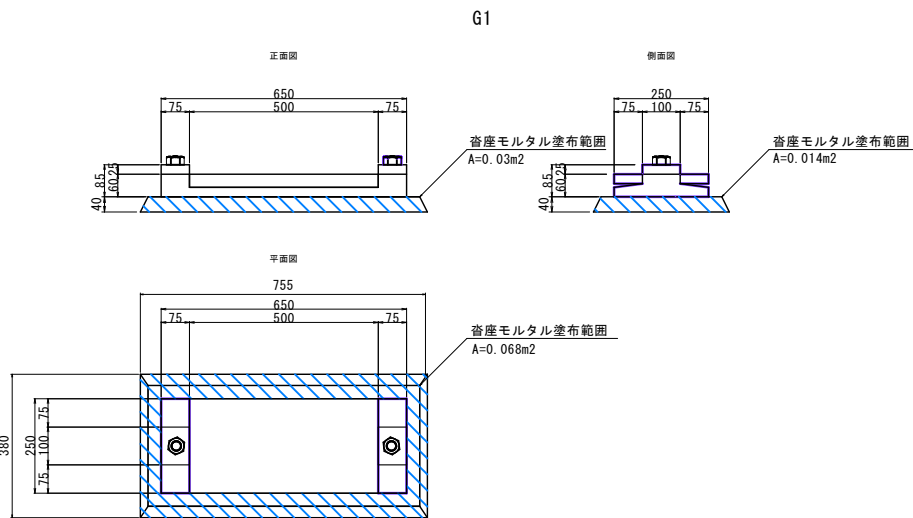
吉方橋補修図（その１２）
支承防錆工（橋脚沓座モルタル部）

S=1:10

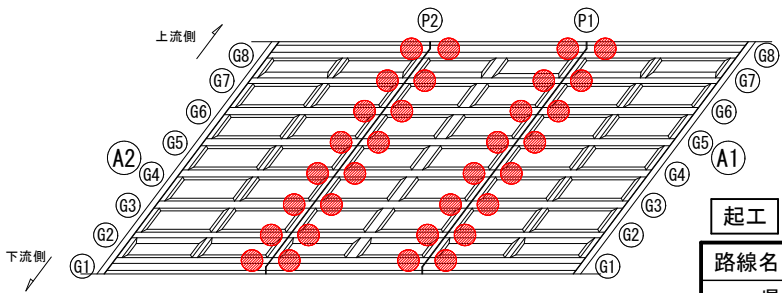
凡 例

補修の種類	図面表示
支承防錆工	

P1, P2



位置図



起工

路線名	一般県道若葉台東町線		
県道若葉台東町線（吉方橋） 橋梁補修工事（１工区）（補助橋補修）			
図 名	吉方橋補修図（その１２）		
位 置	鳥取市 吉方町		
縮 尺	図 示	単 位	mm
図 号	全 １６ 葉中の内 １１		
令和 ８ 年度施行		鳥 取 県	
鳥取県土整備事務所			

注記)

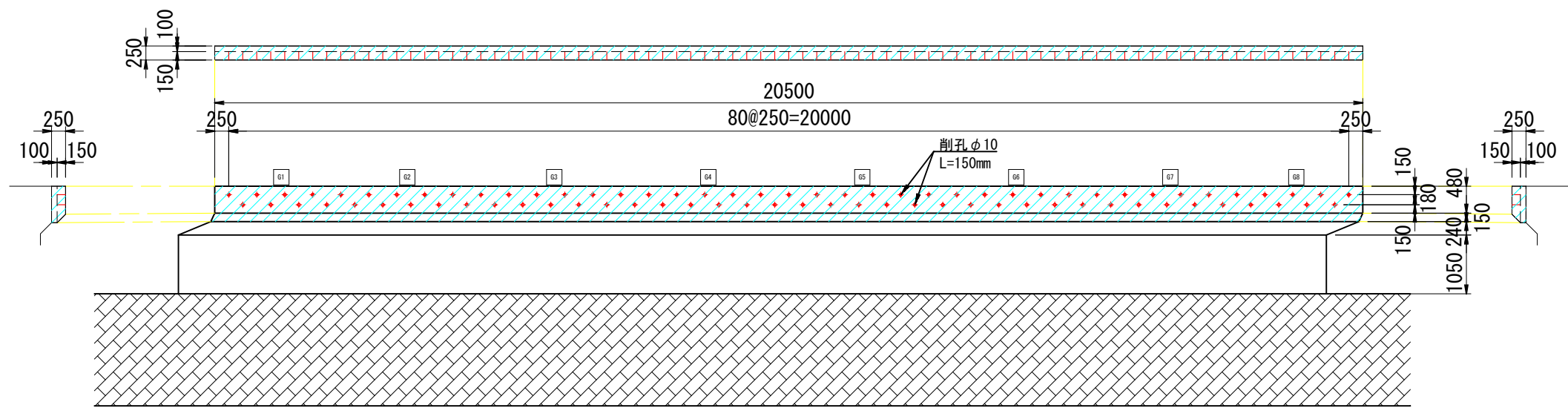
1. 施工前には必ず現況寸法実測を行い、図面照合等の確認ののち施工箇所を決定すること。

吉方橋補修図（その 1 3）

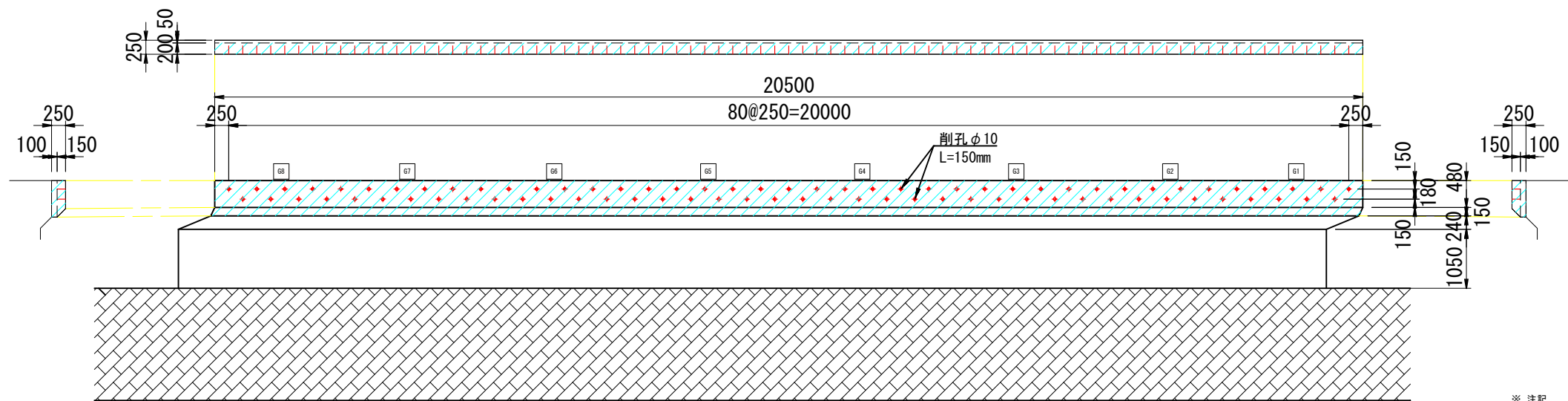
（亜硝酸リチウム内部圧入工）

（A1・A2橋台）

S=1:50



A2橋台姿図



A1橋台姿図

凡 例

	圧入孔削孔位置
	亜硝酸リチウム内部圧入工 (表面保護工)

※ 注記
・本図は現地調査結果に基づき作成しているが、いずれも可能な範囲で近接し、確認したものである。
したがって施工時には、必ず形状等確認したうえで施工を行う必要がある。
・補修部位の施工に際しては、事前に既設コンクリート面の清掃を行い、数量等の確認をする必要がある。

起工

路線名	一般県道若葉台東町線		
県道若葉台東町線（吉方橋） 橋梁補修工事（1工区）（補助橋補修）			
図 名	吉方橋補修図（その13）		
位 置	鳥取市 吉方町		
縮 尺	図 示	単 位	mm
図 号	全 16 葉中の内12		
令和 8 年度施行		鳥 取 県	
鳥取県土整備事務所			

吉方橋補修図（その１４）

S=1:50

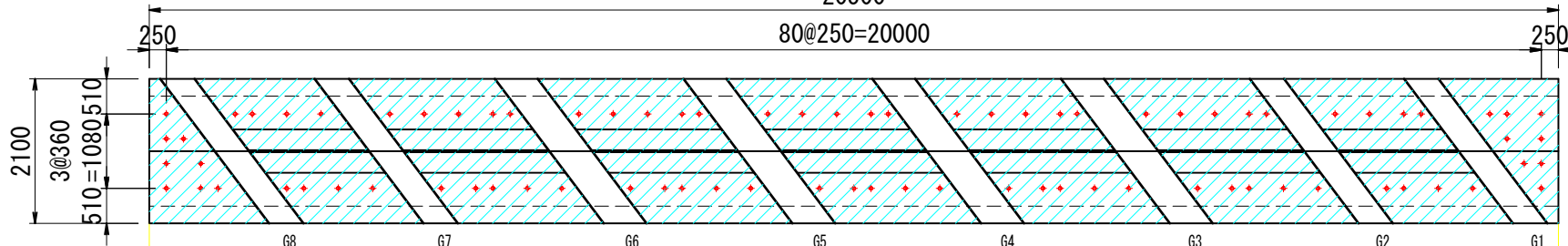
（亜硝酸リチウム内部圧入工）

（P1橋脚）

平面図（上面）

20500

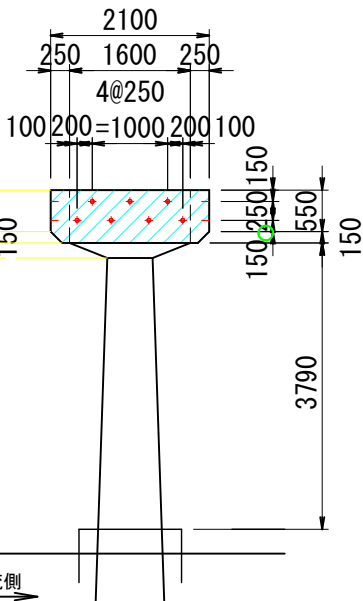
80@250=20000



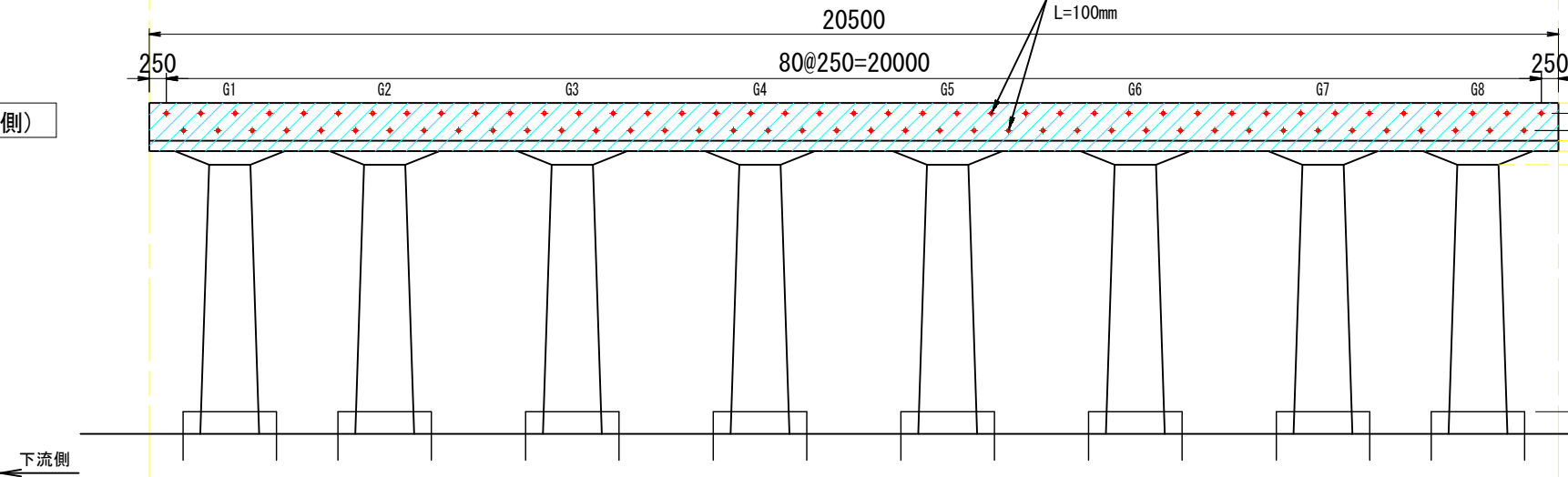
↑ 起点側

↓ 終点側

側面図（右側）



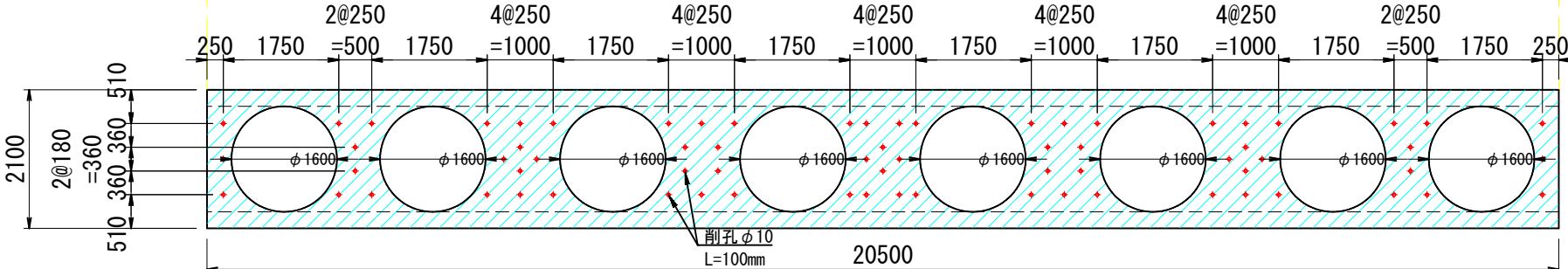
P1橋脚姿図（起点側）



平面図（下面）

20500

80@250=20000



上流側

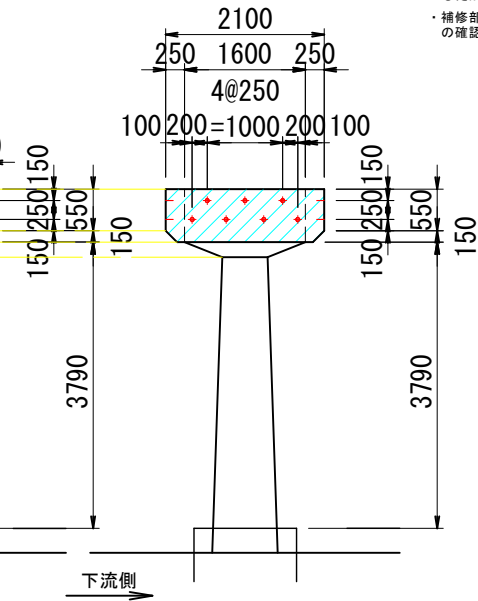
凡 例

	圧入孔削孔位置
	亜硝酸リチウム内部圧入工 （表面保護工）

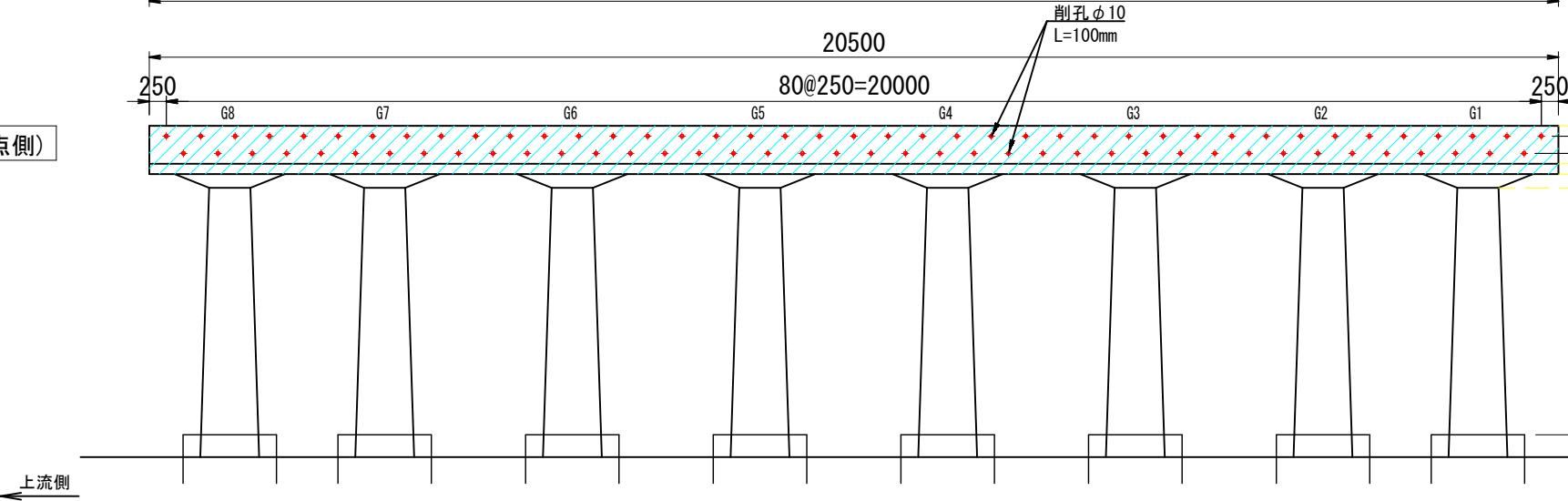
※ 注記

- ・本図は現地調査結果に基づき作成しているが、いずれも可能な範囲で近接し、確認したものである。
- ・したがって施工時には、必ず形状等確認したうえで施工を行う必要がある。
- ・補修部位の施工に際しては、事前に既設コンクリート面の清掃を行い、数量等の確認をする必要がある。

側面図（左側）



P1橋脚姿図（終点側）



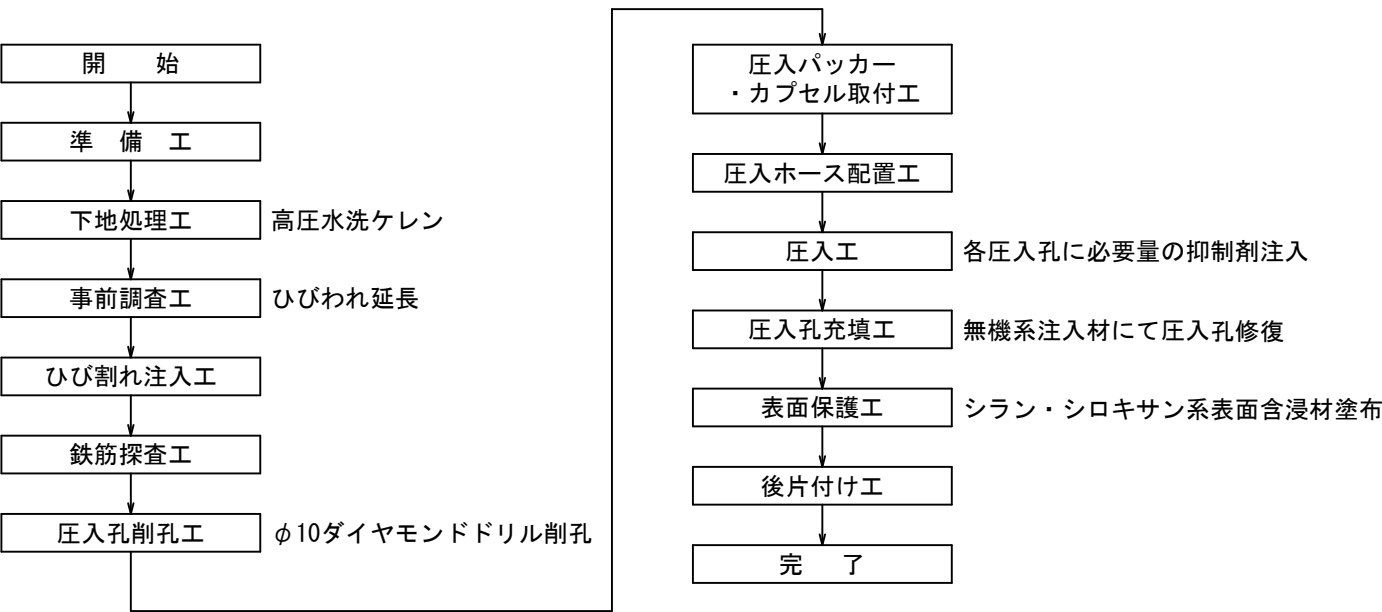
起工

路線名	一般県道若葉台東町線		
	県道若葉台東町線（吉方橋）		
	橋梁補修工事（１工区）（補助橋補修）		
図 名	吉方橋補修図（その１４）		
位 置	鳥取市 吉方町		
縮 尺	図 示	単 位	mm
図 号	全 16 葉中の内13		
令和 8 年度施行	鳥 取 県		
	鳥取県土整備事務所		

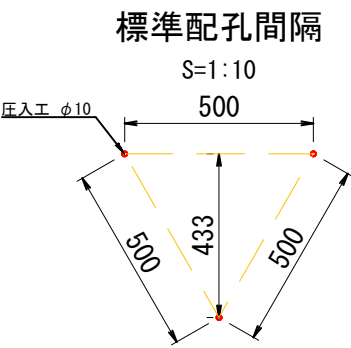
吉方橋補修図（その１６）
（亜硝酸リチウム内部圧入工 補修要領図）

S=1:50

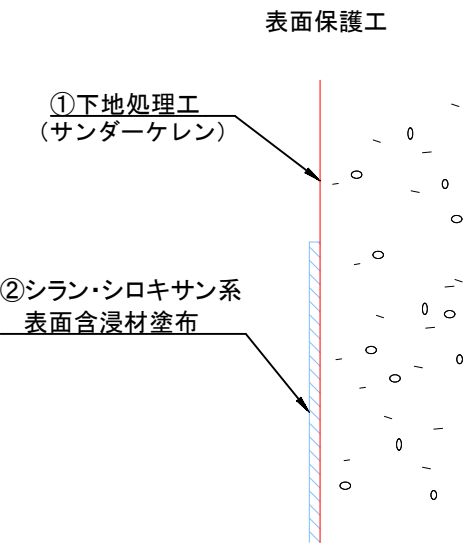
亜硝酸リチウム内部圧入工 施工フロー



注記）・圧入工削孔位置および本数は、既設構造物の形状寸法計測および既設鉄筋探索の後に最終決定すること。
・浮き、剥離や鉄筋露出箇所は、圧入対象範囲から控除すること。
・ひび割れ幅、延長は、事前調査工の結果を基に最終決定すること。
・亜硝酸リチウムの漏出が疑われる場合には、表面シール工を実施すること。

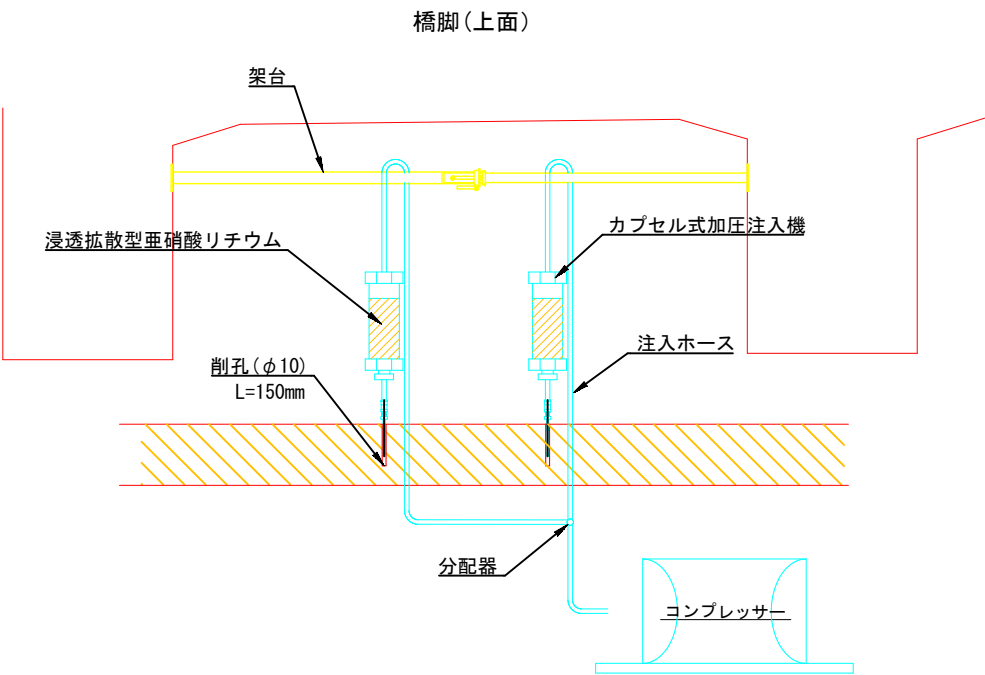
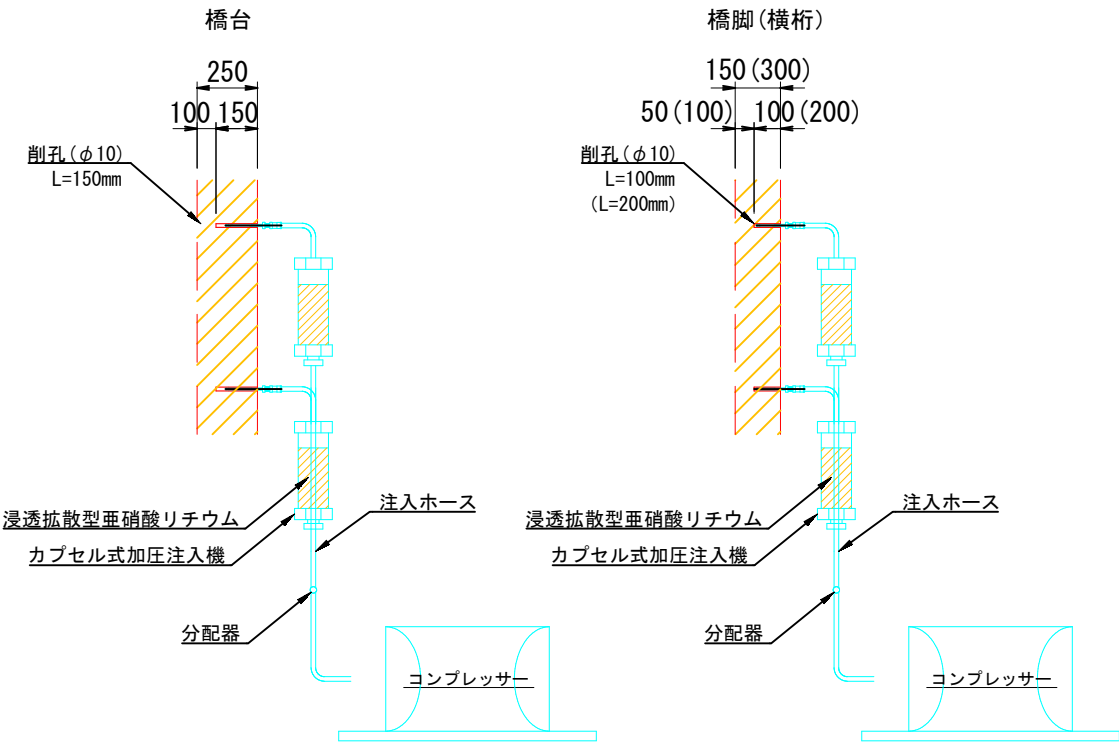


※圧入孔の配置は、上図の千鳥配置を基本とするが、支障物がある場合や構造寸法上、調整が必要な場合などについては適宜変更し対応するものとする。



補修要領図

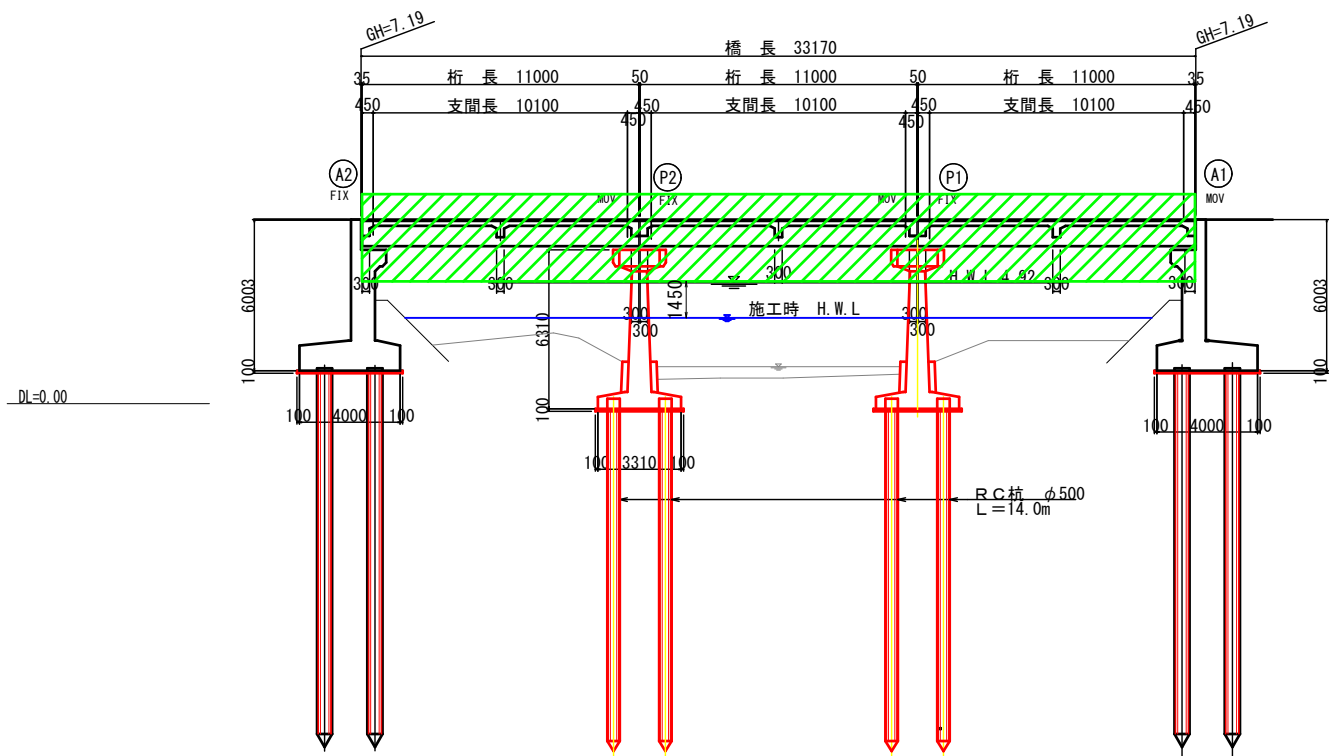
亜硝酸リチウム内部圧入工 S=1:10



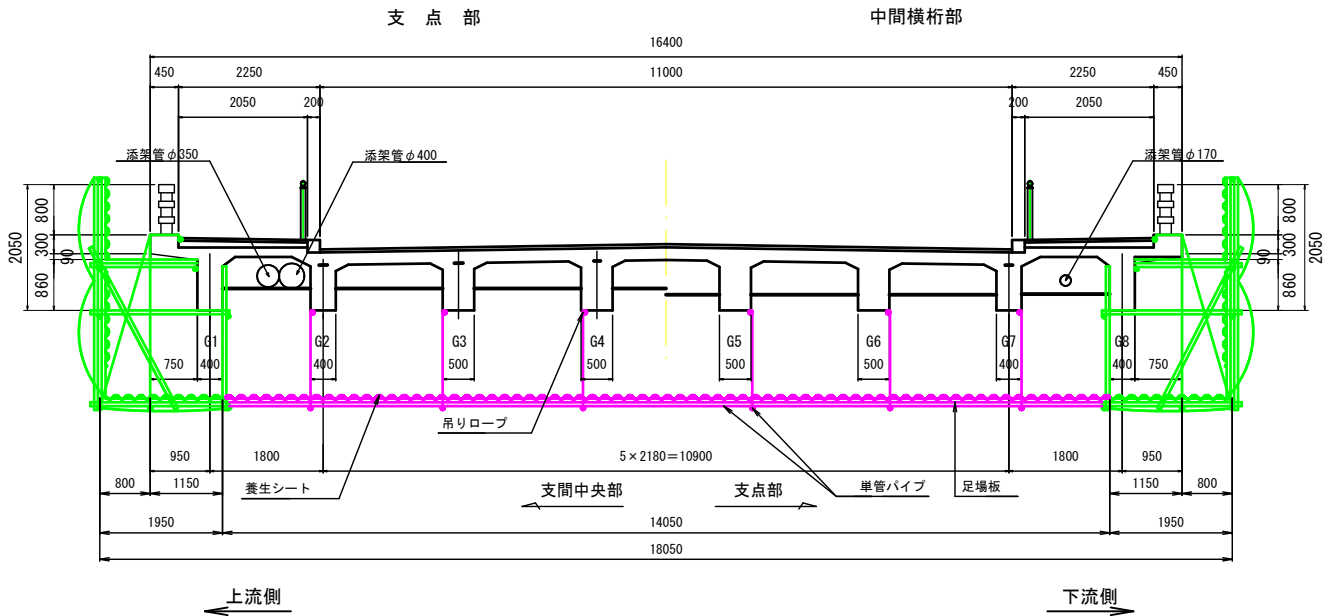
起工			
路線名	一般県道若葉台東町線		
県道若葉台東町線（吉方橋） 橋梁補修工事（1工区）（補助橋補修）			
図名	吉方橋補修図（その16）		
位置	鳥取市 吉方町		
縮尺	図示	単位	mm
図号	全 16 葉中の内15		
令和 8 年度施行		鳥 取 県	
鳥取県土整備事務所			

吉方橋仮設図

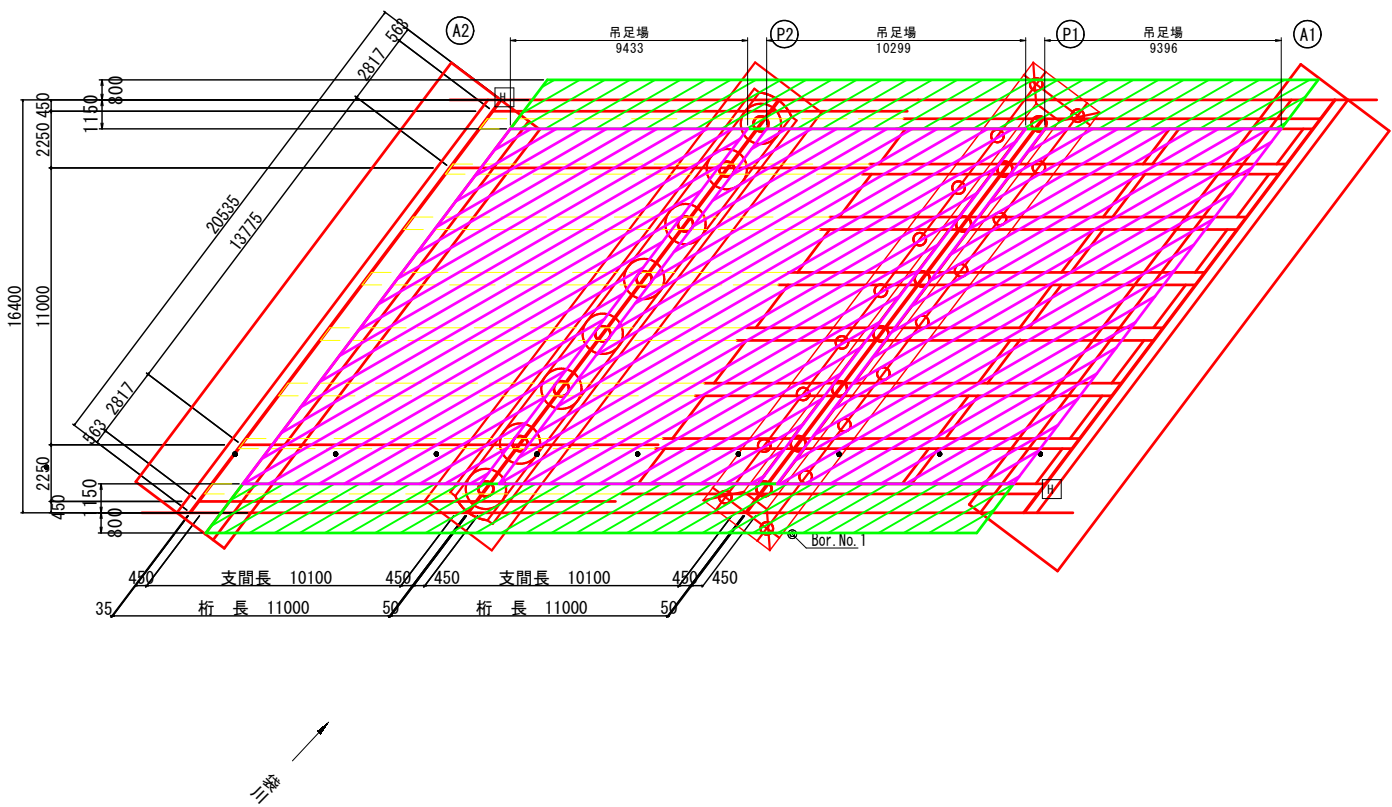
側面図 S=1:150



断面図 S=1:60



平面図 S=1:150



注記)

1. 施工前には必ず現況寸法実測を行い、図面照合等の確認ののち施工箇所を決定すること。

起工 (参考図)

路線名		一般県道若葉台東町線	
県道若葉台東町線（吉方橋） 橋梁補修工事（1工区）（補助橋補修）			
図 名	吉方橋仮設図		
位 置	鳥取市 吉方町		
縮 尺	図 示	単 位	mm
図 号	全 16 葉中の内 16		
令和 8 年度施行		鳥 取 県	
鳥取県土整備事務所			